

島根県立三瓶自然館サヒメル
三瓶小豆原埋没林公園
三瓶山北の原キャンプ場

島根県立三瓶自然館

平成23(2011)年度 年報

公益財団法人 しまね自然と環境財団



春の企画展「虫たちの百面相」



開館20周年記念式典



夏の企画展「鉱物～きらり。地球の造形美～」



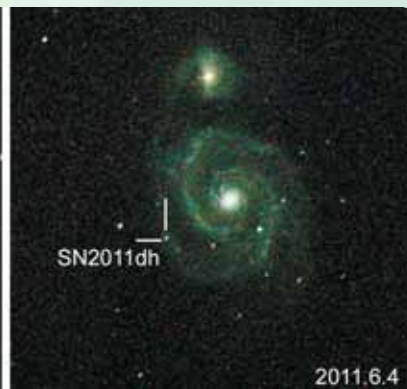
「はやぶさ」ペーパークラフト作り



冬の企画展「日本自然科学写真協会写真展」



土星（4月10日撮影）



5月31日、M51（子持ち銀河）に出現した超新星SN2011dh
（4月3日および6月4日撮影）



金星と木星（3月15日撮影）



鳥類標本整理



植物標本整理



石見銀山生物調査



レッドデータブック改訂のためのコウモリ調査

は じ め に

島根県立三瓶自然館は自然との共生とふれあいをテーマに、島根の自然について幅広く学び体験できる拠点施設として、平成3年10月に開館し、20周年を迎えました。

島根県の自然系博物館として、自然豊かな国立公園三瓶山をフィールドに、自然に親しむ場の提供と共に、展示や普及啓発、資料収集、調査研究などを進め、多くの皆さんにご利用いただきました。

節目となった23年度は、これまでの取り組みを総括しながら企画展やイベントをはじめ、20周年を記念した事業にも取り組みました。

特に、これまでの取り組みをしっかりと検証し、今後の運営に反映させるため、「20周年記念誌」の編纂作業に取り組み、記録として取りまとめました。

21世紀は環境の時代と呼ばれています。新たな出発点との決意で、島根の豊かな自然のすばらしさと同時に、生物の多様性の重要性を学び、自然環境の保全の大切さを改めて感じていただける施設をめざしてさらに努力して参ります。

23年3月には東日本大震災があり、多くの尊い人命が失われるとともに、様々な施設や生活基盤に多大な被害が生じました。博物館等の中にも職員、建物施設のみならず、貴重な資料等を破損したところもありましたが、全国的な支援体制がとられる中、当館もささやかながら植物標本の修復作業のお手伝いに協力させていただきました。

また、被災地で活動する岩手県のNPO法人の要請に応え、「望遠鏡を作って天体を見よう！」というイベントを企画し、当館職員が仮設住宅に直接出向き、子供達と一緒にひと時を過ごしました。

博物館等の業務に携わるものの使命として、潤いと安らぎを体感していただけるよう、他館とも連携しながら様々な形で今後とも協力して参ります。

当財団は23年4月から、公益財団法人に移行いたしました。博物館機能の一層の充実に努めることはもとよりですが、地域や県内外の多くの施設、関係者、機関の皆さんとさらなる連携を図りながら、公益性の高い事業展開を心がけて参ります。

そして、県内外から訪れていただく皆さんに、なお一層親しまれる施設となるよう職員一同精進して参ります。

今年度の取り組みに、ご協力いただきました関係の皆様改めて厚くお礼申し上げます。

平成24年5月

公益財団法人 しまね自然と環境財団
島根県立三瓶自然館

常務理事
館長

安 藤 彰 浩

平成23(2011)年度 年報 目次

I. (公財)しまね自然と環境財団の概要

1. 財団の目的	2
2. 財団の事業	2
3. 管理・運営方針	2
4. 財団の管理する施設の概要	3
5. 組織	5

II. 島根県立三瓶自然館及び附属施設運営事業

1. 展示事業	7
1 常設展示	7
2 企画展	7
3 ビジュアルドーム	10
2. 普及啓発事業	12
1 各種イベント	12
2 移動博物館	16
3 各種行事	16
4 新聞への寄稿	18
5 教育学習活動	18
6 天体観望会	24
7 自然観察会	25
3. 資料の収集・保存	26
4. 施設PR事業	27
5. 博物館ボランティアの活動	28
6. 三瓶小豆原埋没林公園	30
1 運営	30
2 普及啓発	30
3 埋没木の保存検討	31
4 埋没林公園活用検討会	31
7. 施設管理・フィールド管理	31

III. 調査研究・普及啓発事業（島根県立三瓶自然館及び附属施設の運営事業）

1. 事業概要	33
2. 調査研究・資料整理	33

IV. 環境保全活動支援事業（地球環境の保全に関する活動支援事業）

1. 事業概要	38
2. 地球温暖化対策	38
3. 環境保全活動支援	43

V. 北の原キャンプ場管理運営事業（北の原キャンプ場の管理運営事業）

1. 利用促進業務	45
2. 管理体制	45
3. 施設維持管理	46
4. 利用状況及び収支状況	46
5. 自主事業	46
6. その他の事業	47
(1) 地域と連携した観光振興に関する事業	47
(2) 大田市全体及び三瓶山周辺観光のインフォメーション機能を担う事業	47

VI. 利便提供事業（施設利用者への利便提供事業）

1. 物販事業	48
2. 貸出事業	48

VII. 地域との連携、その他の事業（島根県立三瓶自然館及び附属施設の運営事業）

1. 地域との連携	49
2. 他地域との連携	49
3. 他施設との連携	50
4. 行政への協力	50
5. 東日本大震災への対応	51

VIII. 各種資料

1. 数値目標を掲げた運営	52
2. 利用者数の推移	57
3. 沿革	59
4. 予算	60
5. 関連記事	61
6. 資料	66
7. 評議員会・理事会	70
8. 条例	72

※（ ）内の事業名は、公益認定登録事業名

I. (公財)しまね自然と環境財団の概要

1. 財団の目的

公益財団法人しまね自然と環境財団は、島根県内の自然系博物館施設及び自然公園施設等の管理運営を通じ、自然公園の保護と利用の増進に資するとともに、地球環境保全、自然環境の保護及びその他の環境の保全に関する普及啓発事業等を行い、広く県民に対して環境の保全の重要性を訴え、もって島根県の環境の保全及び地域の振興に寄与することを目的とする。

2. 財団の事業

- (1) 自然系博物館施設及び展示施設の管理運営事業
- (2) 自然保護及び自然環境に関する調査研究、並びに普及啓発事業
- (3) 環境教育及び環境学習に関する事業
- (4) 地球環境の保全に関する活動支援事業
- (5) 自然資源の利用促進等を通じた地域振興事業
- (6) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

3. 管理・運営方針

当財団は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設（三瓶小豆原埋没林公園等）、大田市施設北の原キャンプ場の指定管理者として、それぞれ島根県並びに大田市から指定されている。

これらの施設の運営にあたっては、次の6つの基本方針を共有しながら、各施設の特色を発揮させるとともに、法人として「自然に関するシンクタンク」的役割を担い、もって社会に貢献していくことを目指している。

- ・「自然に親しみ学べる」場と機会を提供する。
- ・「ふとした疑問」から「専門的な問題」まで、自然の課題を解決する。
- ・島根県の中心的な自然系博物館として、博物館機能の充実を図る。
- ・地域振興の核となる施設運営を目指す。
- ・県民（市民）や行政など様々な人との関わりを大切に、施設と地域の発展を図る。
- ・入館者（利用者）の確保により、安定した施設経営を目指す。

また、松江事務所を中心に展開する環境保全活動支援事業では、地球温暖化をはじめとする地球環境の課題の啓発を図り、各キャンペーンや環境保全活動への助成を行っている。事業実施にあたっては三瓶自然館等の施設との連携を密にして効率的で効果的な事業展開に努める。

4. 財団の管理する施設の概要

1 島根県立三瓶自然館サヒメル

島根や三瓶の自然、三瓶小豆原埋没林、環日本海の自然に関する展示、プラネタリウムや大型ドーム映像を映し出すビジュアルドーム、天体観察施設、博物館資料の収蔵庫、研究室などを備えた自然系博物館であり、三瓶山全体をひとつの野外博物館と考える三瓶フィールドミュージアムの中核としてビジターセンター機能も兼ね備えた施設である。



所在地	島根県大田市三瓶町多根1121番8
開設年月日	平成3年10月19日（平成14年4月18日拡充開館）
面積	敷地面積 14,822㎡ 建築面積総計 4,442㎡ 建物延べ床面積総計 8,513㎡
施設内容	本館 常設展示（島根の自然・三瓶の自然）、ビジュアルドーム、 野外観察コーナー、受付、売店、事務室、機械室など 別館 レクチャールーム、企画展示室 新館 常設展示（小豆原埋没林、環日本海の自然、フィールドガイド） 天体観察施設、収蔵庫、研究室、文献図書室、機械室など
付属施設	三瓶山ヘルシートレイリングコース（北の原～東の原 片道4.5km） 北の原フィールドセンター、自然観察入門広場、北の原芝生多目的広場

2 三瓶小豆原埋没林公園

三瓶小豆原埋没林公園は、三瓶小豆原埋没林を現地で展示、公開する施設である。平成15年5月に三瓶自然館の附属施設として開館した。県内外からの来場者があり、平成23年度は約2.7万人の入館者があった。

施設は、大小2つの地下展示棟と芝生園地からなる。展示棟では、原位置のままで立ち並ぶ埋没樹を展示している。芝生園地は、発掘調査で確認された埋没林を埋め戻し保存している範囲である。当施設の敷地範囲が天然記念物（国）に指定されており、埋没林の保存管理も施設の役割である。



3 三瓶山北の原キャンプ場

三瓶山北の原キャンプ場は、国立公園三瓶山の広大な自然の中にあるキャンプ場である。昭和44年の開場から利用者は79万人を超え、県民はもとより、中国地方一円の方々の憩いの場としての役割を果たしてきた。当財団は、平成4年度からは県からの受託、17年度からは指定管理者として管理運営を行ってきた。平成22年度からは大田市の施設となったが、市の指定管理者として、引き続き管理運営を行っている。



家族向けのオートキャンプサイト、山小屋風のケビンに加え、団体に対応した集団キャンプサイトにキャンプファイヤー場もあり、学校団体や企業の職員研修等にも利用されている。炊事棟やシャワー棟、ランドリー施設も整備されている。

所在地	島根県大田市三瓶町多根1121番1		
開設年	昭和44年		
面積	敷地面積	100,000㎡	
施設内容	セントラルロッジ	受付、事務室、多目的ホール、売店など	
	オートキャンプサイト	73区画	
	一般キャンプサイト	フリーサイト（テント200張可）	
	ケビン	大型ケビン3棟 小型ケビン10棟	
	その他	（シャワー棟、キャンプファイヤー場、炊事棟、トイレ棟 など）	

5. 組 織

□評議員・役員名簿（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

<評 議 員>

議 長	平 塚 貴 彦
評 議 員	板 倉 宏 文
"	鈴 垣 英 晃
"	高 瀬 寿 子
"	高 橋 泰 子
"	星 川 和 夫（～H24. 3/19）
"	蓮 花 正 晴
"	宮 永 龍 一（H24. 3/19～）

（役毎にアイウエオ順）

<役 員>

理 事 長	江 口 博 晴（～H24. 3/19）
"	廣 澤 卓 嗣（※）
常務理事	安 藤 彰 浩
理 事	石 田 弘 行
"	末 成 弘 明
"	梅 恒 雄
監 事	中 原 良 輝
"	松 井 幸 秀

（役毎にアイウエオ順）

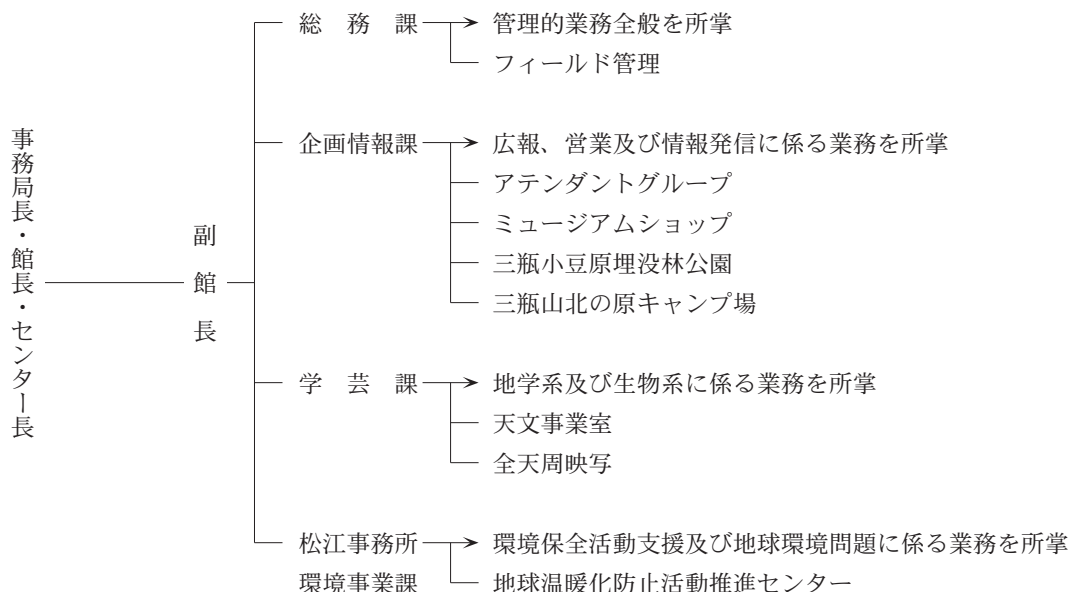
※理事H24. 3/19就任、理事長H24. 3/28就任

□三瓶自然館運営委員名簿（平成23年8月1日～平成25年3月31日）

委 員 長	島 田 一 嗣	委 員	初 見 眞知子
委 員	秋 吉 英 雄	"	福 村 郁 夫
"	岩 井 元 康	"	藤 井 好 文
"	甲 斐 茂	"	堀 江 純一郎
"	皆 田 修 司	"	松 井 律 子
"	茅 島 誠	"	山 口 啓 子
"	徳 永 章 人		

□事務局（役員1人、総合職員14人、専門職員10人、一般職員21人、臨時職員17人 計63人）

（平成23年9月1日現在、兼務除く）



□職員名簿（平成23年4月1日～平成24年3月31日）（平成23年9月1日現在）

＜統 括＞		アテンダント	小田佐由香	研 究 員	河野 重範
事務局長・館長	安藤 彰浩	〃	川上 望		（地質）
副 館 長	龍 善暢	〃	和田ひみこ	〃	安藤 誠也
		〃	小林 成美		（動物）
＜総 務 課＞12名(内兼1名)		〃	大谷 朗子	客員研究員	福岡 孝
課 長	石田 浩二	〃	西本 雪乃	〃	大畑 純二
人事担当(取扱)	帯刀 公平	埋没林公園チーフ	熱田 康夫	学芸スタッフ	松原 勝志
主任主事	米浦 道子	埋没林公園スタッフ	後長奈緒美	〃	太田 和良
主 事	田原いづみ	〃	遠藤真理子	〃	森山ゆり子
主 事	古井 亮司	〃	藤原 昌己	〃	坂本真紀子
主 事	竹下 瑠美	キャンプ場チーフ	板垣 睦子		
フィールドチーフ	廣岡 朗	キャンプ場サブチーフ	小原美保子	天文事業室	
フィールドスタッフ	藤原 功雄	キャンプ場スタッフ	山中 伸	室 長	竹内 幹蔵
	大谷 文子	〃	小丸 政美		（天文）
	三輪 洋二	〃	山本 智子	研 究 員	太田 哲朗
	大上 雅史	〃（兼務）	太田 和良		（天文）
	中田 政春			〃	矢田 猛士
					（天文）
		＜学芸課＞19名(内兼3名)			
＜企画情報課＞27名(内兼2名)		課長(取扱)	龍 善暢	全天周映写技師	南家 明
課 長	帯刀 公平	課長代理	井上 雅仁	〃（兼務）	松村 美雪
主 幹	中村 唯史		（植物）		
企画グループリーダー	野崎 研	学芸グループリーダー	星野由美子	＜松江事務所(環境事業課)＞	
情報担当(兼務)	矢田 猛士		（鳥類）		6名
主任企画員	熊谷 正浩	地質担当(兼務)	中村 唯史	所 長	糸川 賢行
企 画 員	安原 豊子		（地質）	課 長	葭矢 崇司
〃	福屋久美子	主任研究員	皆木 宏明	企 画 員	伊藤はるか
チーフアテンダント	大草 秀美		（昆虫）	〃	山根 瞬
サブチーフアテンダント	林 めぐ美	研 究 員	松村 美雪	〃	伊藤 玲子
アテンダント	細田須美子		（植物）	〃	門脇 恵美
〃	榎原 舞	〃	三島 秀夫		
			（昆虫）		

□プロジェクトチーム

事務局 長	20周年記念事業チーム……………	リーダー	龍 善暢
	特別企画展班……………	班 長	中村 唯史、他3名
	記念誌・式典班……………	班 長	井上 雅仁、他3名
	学校団体利用推進チーム……………	リーダー	星野由美子、他4名
	サービス提供チーム……………	リーダー	帯刀 公平
	一般サービス班……………	班 長	太田 哲朗、他4名
	キッズサービス班……………	班 長	田原いづみ、他4名
	展示広報班……………	班 長	矢田 猛士、他4名

Ⅱ．島根県立三瓶自然館及び附属施設運営事業

1．展示事業

1 常設展示

県立の自然系博物館であり、三瓶山地区のビジターセンターであることをふまえ、本館では、島根県および三瓶山の自然について、展示パネル、剥製やレプリカ、映像などの展示を行っている。また新館では、山麓で発見された三瓶小豆原埋没林、島根県を取り巻く環日本海の生いたち、フィールドガイド、天文展示を行っている。

大きな変更は難しいものの、季節に応じての展示物の入れ替え、野外でみられる草花の展示、来館者からの要望に応じた解説などを行い、展示への興味関心を喚起した。また、企画展開催中には、展示室の一部をサテライト会場として利用し、館全体で企画展を楽しめるように工夫した。

2 企画展

(1) 春の企画展「虫たちの百面相～この顔に見覚えは？」

期 間：3月19日(土)～5月30日(月)

入場者：23,317人

昆虫の顔を中心に、虫がもつさまざまな形態に焦点を当てた企画展。飛び出した口や大きなアゴ、はたまた口のない昆虫など小さな体に秘められた、虫の体の不思議を大きく紹介。実物の標本だけでなく、巨大な写真や模型、映像を使ってわかりやすく紹介した。また、展示パネルや展示台はダンボールで作成し、展示室が楽しい雰囲気になるよう努めた。



春の企画展 展示風景



◆主な展示

・展示室

- | | |
|------|--|
| 昆虫標本 | 世界の昆虫標本（約80箱 1,500点）展示
（標本：ゾウムシ、チョウ、トンボ、ガ類、スズメバチ類、カメムシ類、
バイオリンムシ、世界のカブトムシ、クワガタムシ、ナナフシなど） |
| 画像 | 200点以上の昆虫画像を自由に拡大して映すZooMuSee
マイクロスコープによる拡大体験 |

大型シートによる虫の巨大写真展示

DVD映像 科学標本「昆虫の標本 名前を調べる」

大型模型 昆虫拡大模型（ミヤマクワガタ・カブトムシ）で体の仕組みを解説

・回廊

海野和男氏撮影の虫の顔面写真 25点

小檜山賢二氏の高精細昆虫写真 15点

展示協力：

独立行政法人科学技術振興機構 財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 三谷彰一

(2) 夏の特別企画展「鉱物～きらり。地球の造形美～」(企画展示室)

「島根の文化と神話世界を育んだ鉱物展」(本館1階展示室)

期 間：7月16日(土)～9月25日(日)

入場者：66,931人



夏の企画展 展示風景



◆主な展示

企画展示室と本館1階展示室で鉱物の展示を行った。企画展示室では、地下空間をイメージした空間演出のもと、「美しさ」をテーマに世界各地の鉱物標本約250点を展示した。本館1階展示室では、島根県産の資源鉱物の標本約50点を展示した。

来場者は、鉱物ファンの層の広さを反映して幅広く、企画展示室では熱心に見入る女性の姿が目立った。また、1階展示室は「鉱物鑑定会」の出品品や石見銀山の大型鉱石標本を展示したことで、それらを目的に来場した入館者が多かった。

・企画展示室：

ルビー、サファイヤ、アクアマリン、ダイヤモンドなど宝石となる鉱物をはじめ、美しいものや形が際だつ物を中心に展示した。本館側回廊部分から演出的に鉱物を展示し、展示室は布と光を使った造形で地下空間をイメージした。

・本館1階展示室：

佐毘売山神社所蔵の石見銀山鉱石、松代鉱山のアラレ石、県内鉱山産の鉱石標本を展示した。佐毘売山神社の鉱石は、神社境内からの搬出が新聞等で報道され、来館効果があった。

“神々の国しまねの観光誘客” はじまるイベント事業助成金事業

展示協力：

九州大学総合研究博物館、徳島県立博物館、GEO理科教育研究所、産業技術総合研究所地質標本館、島根県産業技術センターほか

◆関連イベント

□鉱物たんけん隊「金属の鉱物を探せ」

実施日：5月15日(日)

参加者：30名

邑南町教育委員会の協力を得て、邑南町久喜大林銀山で鉱物を観察した。



鉱物たんけん隊

□鉱物たんけん隊「メノウを探すぞ」

実施日：5月29日(日)

参加者：30名

松江市立玉作資料館の協力を得て、松江市玉湯町でメノウの産状等を観察した。



鉱物鑑定会

□お宝拝見!! 鉱物なんでも鑑定会

実施日：6月19日(日)

参加者：出展者96名・観覧者160名

鑑定希望の鉱物を事前に募集して、当日は、講師に鉱物科学研究所所長の堀秀道氏を招いて開催した。地元大田市を中心に多くの出展があり、企画展へ向けた話題創出に大きな役割を果たした。

□講演会「石見銀山の鉱物を探る」

実施日：7月24日(日)

参加者：60名

九州大学名誉教授の井澤英二氏を招いて実施した。この講演会において、久喜大林銀山で鉛の製錬跡が確認されたことを初公表され、新聞等で大きく紹介された。

□まが玉作り

実施日：7月17日(日)、23日(土)、30日(土)、
8月6日(土)、20日(土)

参加者：152名

滑石を使ったまが玉作りを実施した。親子での参加が多く、毎回定員の30名に達する人気だった。



まが玉作り

□石の宝箱作り

実施日：9月17日(土)、18日(日)

参加者：160名

4種の鉱物を用いて小さな標本箱を作成する小イベント。本館1階図書コーナーで実施した。

(3) 冬の企画展「日本自然科学写真協会写真展」

期 間：12月10日(土)～1月30日(月)

入場者：1,378人

内 容：昨年度に続いて、第32回となる日本自然科学写真協会（SSP）の会員による作品展を開催した。所属する協会会員は400名を超えており、この中から選ばれた動植物や昆虫、水中、風景など幅広い分野の作品111点を展示した。生き物の煌めく一瞬を切り取ったものや、刻々と変化する風景を捉えたものなど、来場者の興味をひく力作が多数並んだ。



冬の企画展 展示風景



3 ビジュアルドーム

(1) プラネタリウムの投影

平成22年3月にリニューアルしたプラネタリウム機器の機能を生かし、臨場感のある映像を用いての星座案内およびテーマ番組の投影を行った。特に三瓶自然館20周年記念として制作したオリジナル・テーマ番組「秘密結社 鷹の爪 THE PLANETARIUM ～ブラブラ！ブラックホールのはず」は話題となり、多くの観覧があった。

①プラネタリウム一般投影

◆星座案内

期 間：通年

観覧者：15,160人

季節ごとの星座を約20分間、天文職員とアテンダントが担当し、折々の天文現象や時節の話題を織り交ぜながら投影した。土曜の午後は天文職員が月替わりで担当する45分間の「プラネタリウム星空案内」を投影し、宇宙・天文の話題を詳しく解説した。

◆テーマ番組

□宇宙をかける地球にのって

期 間：4月1日(金)～7月14日(木)、10月1日(土)～3月4日(日)

観覧者：4,139人

一年をかけて太陽のまわりを一周する地球。折々に星空を眺めれば、そこには季節に応じたさまざまな星座が広がっている。見える星座が季節ごとに巡っていくようすを、宇宙からと地上からの2つの視点でながめ、地球の公転について考える番組。地元の中学校の理科教員からのアドバイスも得ながら制作を行った。中学生向け学習番組。

□秘密結社鷹の爪 THE PLANETARIUM～ブラブラ！ブラックホールのナゾ

期 間：7月15日(金)～平成24年3月31日(土)（平成24年5月6日まで投影）

観覧者：24,855人

人気アニメ「秘密結社 鷹の爪」のキャラクターを使ったプラネタリウム番組。島根県出身の登場人物「吉田くん」を用いて島根を取り上げつつ、多くの人が興味を持つブラックホールを科学的な主題として、最新の宇宙論をおもしろく、わかりやすく伝えた。

②プラネタリウム学習投影

実施数：36団体 1,733人

「4年生向け投影」、「6年生向け投影」、「星座早見の使い方」、「中学生向け投影」および「幼児向け投影」を学校の希望に合わせて行った。

(2) 大型ドーム映像の上映

◆特別番組 「いきものがたり いきものはみんな星からできている」

期 間：11月2日(水)～1月30日(月)

観覧者：1,933人

38億年前に誕生した生命は途切れることなく進化を続け、現在では3000万種にも及ぶ生き物が地球に暮らしている。なぜこのような多様性を持ち得たのかを歴史とともに振り返り、多くの生き物が絶滅している現代と私たち人間の暮らしを考える作品。

◆一般番組 A：「三瓶自然紀行」「煌めきのなかで」 B：「三瓶冬紀行」「島根人と自然の原風景」

期 間：A＝4月～10月、B＝2月～3月

観覧者：10,304人

三瓶自然館のオリジナル作品。四季折々にさまざまな顔を見せる三瓶山と、そこに暮らす生き物を追った「三瓶自然紀行」「三瓶冬紀行」、島根県内各地の風物や人の生活に焦点をあてた「煌めきのなかで」「島根人と自然の原風景」を季節に応じて入れ替えて上映した。

2. 普及啓発事業

1 各種イベント

□早春の男三瓶山を歩く

日 時：4月24日(日) 9:00～14:30

参加者：38人

内 容：山開き行事に協賛して、早春の自然を観察しながらの登山を行った。残雪が多かったため、登山ルートを変更して実施した。途上では、館ボランティアスタッフ「インタープリター」が解説を行うことで、単なる登山ではなく、早春の動植物を楽しむ内容とした。



早春の男三瓶山を歩く

□オキナグサ観察会

日 時：4月29日(金) 10:00～11:30

参加者：24名

内 容：春の三瓶の草原を代表するオキナグサ。その見頃の時期にあわせて実施した自然観察会。解説はインタープリターが担当した。



オキナグサ観察会

□カキツバタまつり

日 時：5月22日(日) 10:30～15:00

参加者：約700名

内 容：大田高校茶道部による野点、竹下貞子社中による花展、合原社中による琴と尺八の演奏、インタープリターによるカキツバタ観察会などを行った。雨天のため、館内を中心としたイベントとなった。



カキツバタまつり

□夏の夜の昆虫観察

日 時：7月30日(土) 19:00～21:00

参加者：39人

内 容：夜に活動する昆虫の観察。セミの羽化やライトトラップを使って夜行性の昆虫たちを観察した。アブラゼミやヒグラシの羽化、夜の森を歩く体験が好評であった。

□七夕まつり

日 時：8月6日(土) 9:30～22:00

参加者：約1,500人（うち天体観望会121人）

内 容：子ども向け七夕編プラネタリウム投影、ヨーヨーつり、紙芝居を行った。新館に笹飾りを設置。浴衣での入館を無料とした。夜の観望会は曇ったので、プラネタリウムを投影した。



七夕まつり

□夏休みさんべ冒険キャンプ

期 間：8月7日(日)～9日(火)

参加者：8人

内 容：広島市発着の小学生対象のキャンプ。ひろでん中国新聞旅行の協力で実施した。北の原キャンプ場でキャンプし、三瓶登山、農業作業体験を行った。また、三瓶こだま学園生との交流活動も行った。



夏休みさんべ冒険キャンプ

□秋の七草観望会

日 時：8月14日(日) 10:00～11:30

参加者：24名

内 容：秋の七草のうち三瓶北の原草原で見られる6種類を中心に行った自然観望会。解説はインタープリターが担当した。

□出雲農林高校移動動物園

日 時：8月21日(日) 10:00～15:00

参加者：約2,000名

内 容：生きた哺乳類や鳥類、爬虫類を三瓶自然館正面玄関で展示。大きなリクガメに乗ったり、モルモットを触るなど、動物たちとの触れ合いを体験することができた。飼育を担当している高校生が、動物たちについてわかりやすく解説した。



出雲農林高校移動動物園

□三瓶夏神楽

日 時：7月23日(土)～8月27日(土)まで
毎週土曜日 17:00～18:00

参加者：約1,000人

内 容：神話の舞台、三瓶山の夕暮れを背景にして、地元の大屋神楽社中、大江高山神楽社中、土江子ども神楽団が、



三瓶夏神楽

自然館正面玄関に設置された特設舞台にて石見神楽を上演し、来館者を圧巻した。
（“地域の歴史文化の再発見” はじまるイベント事業助成金を活用した）

□爆笑！星のお兄さんプラネタリウムショー

日 時：9月11日(日) 14:30～15:45

参加者：175人

内 容：「星のお兄さん」こと、田端英樹氏によるプラネタリウム解説。当館では4年ぶりの公演ということで、早くから申し込みが殺到した。新しいプラネタリウム機器の機能により、以前より多くの星座が軽妙な語り口で紹介され、満員の会場が笑いに包まれた。



爆笑！星のお兄さんプラネタリウムショー

□小惑星探査機「はやぶさ」～帰還カプセル展示in松江～

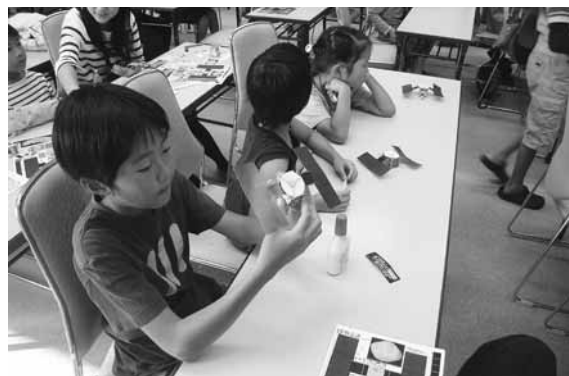
期 間：9月29日(木)～10月3日(月)

場 所：松江市くにびきメッセ

参加者：13,450人

（うち体験コーナー参加者1,280人）

内 容：松江市・松江市教育委員会主催の企画に当館が共催した。展示会場において当館は特に体験コーナーを担当し、職員による「まるわかり『はやぶさ』ガイド」と『はやぶさ』ペーパークラフト作り、和歌山大学・尾久土正己教授を招いての『はやぶさ』目撃体験談」を実施した。



「はやぶさ」ペーパークラフト作り

□さんべ祭&しまねエコフェスタ2011

期 間：10月22日(土)～23日(日)

参加者：約6,000人（2日間）

内 容：・各環境団体の活動発表、展示
ステージ及びテントにおいて6団体が発表、22団体が活動展示・出展
・省エネルギー関連イベント
様々な発電、省エネ機器の実演、セグウェイ体験試乗会、クラフト、ヒーローショー、エコアクションラリー、家庭のエコ診断
・環境講演会
FROGMAN氏によるトークショー



さんべ祭&しまねエコフェスタ

三瓶青少年交流の家などとの共催の「さんべ祭」と、地球温暖化防止活動推進センターの事業である「しまねエコフェスタ 2011」を同時開催した。エコフェスタでは、県内の地球温暖化防止及び環境保全を行う団体がその活動出展や活動発表を行った。来場者に身近な環境問題について普及啓発を図るとともに、団体同士の連携、相互の情報交換の機会となった。

□20周年記念友の会限定ツアー

「見て知って食べて 紅葉の三瓶山」

期 日：10月30日(日)

参加者：9名

内 容：当館職員が三瓶自然館の友の会会員対象に、通常紹介されにくい三瓶山周辺や館内を案内した。また三瓶そばや三瓶米の新米などを提供し、体力・知力・食欲を満たしたツアーとなった。



20周年記念友の会限定ツアー

□リラクゼーションプラネタリウム

日 時：11月3日(木) 12:30～13:30

参加者：53人

内 容：映し出される恒星の数が増え、よりリアルな星空を表現出来るようになったプラネタリウムの下、音楽を聴きながら、リラックスできる時間をお客様に提供する。全天型デジタル映像も加えた演出で行った。

□お正月イベント

日 時：1月2日(月)、3日(火)
10:00～15:00

参加者：約680人

内 容：お正月に臨時開館して行う恒例のイベント。自分で餅を焼く参加型ぜんざいの他、書き初め、羽子板、コマ回し、福引き、お年玉すくいゲーム、龍のパネル作りなどを実施した。リピーターも年々増え、雪にもかかわらず多くの来館者で賑わった。



お正月イベント

□歩くスキーでアニマルトラッキング

日 時：2月5日(日) 10:00～12:00

参加者：23人

内 容：動物たちの痕跡を探して、雪の積もった北の原を散策した。キツネやタヌキ、テンにノウサギなど、様々な動物の足跡が観察できた。解説はインタープリターが担当した。



歩くスキーでアニマルトラッキング

□北の原ファンタジー

日 時：2月19日(日)

11:00～、14:30～(各60分)

参加者：241人

内 容：「リコとふしぎな絵本」と題して、アテンダントが行った、創作劇風の幼児向け参加型イベント。絵本の世界に迷い込んだ女の子が、元気のなくなったリンゴの木を子供達の力を借りて大きく育てていくという物語。生き物にとって、水や太陽エネルギーがとても大切だということを問いかけた。



北の原ファンタジー

□親子で作ろう工作教室

日 時：5～9月の祝日と日曜日

13:00～15:00

自然や環境をテーマにした親子向けの工作で、企画と実施をインタープリターが担当した。内容は、

「5/4 竹笛・横笛を作ろう (37)」

「5/5 ストーンアート：

石こけしを作ろう (13)」

「7/24 タイルで遊ぼう (36)」

「8/7 牛乳パックでジャンプ台をつくろう (26)」

「8/21 お気に入りのマイバッグを作ろう (11)」

「9/18 乾くと木になる粘土で鉛筆を作ってみよう (23)」

「9/23 木の実で動物をつくろう (27)」。



親子で作ろう工作教室

() 内は参加人数。

2 移動博物館

□サヒメルin松江

会 場：タウンプラザしまね（松江市）

期 日：12月11日(日)

来場者：160人

内 容：ミニプラネタリウムと缶バッジ作りの工作と、昆虫と鉱物の標本展示を行った。来場者は、幼児とその家族が中心で、会場周辺の幼保育園へのチラシ配布が効果的だった。



移動博物館

3 各種行事

□開館20周年記念式典

期 日：7月16日(土)

出席者：280人

内 容：県、市をはじめ県議会、大田市議会、関係団体の他、三瓶周辺の小中学校児童・生

徒など 280 名の方が出席し、三瓶自然館エントランスの特設ステージで記念式典を開催した。多根神楽団の石見神楽上演で幕を開けた式典は、最初に当財団の江口理事長が主催者を代表して挨拶を行い、溝口島根県知事、竹腰大田市長をはじめとする来賓の方々の祝辞の後、くす玉が割られ、三次市の保育園児によるオリジナルのサヒメルの歌やお遊戯により大盛況となった。

また、これまで三瓶自然館に対して多大な貢献のあった松井整司氏、杵村喜則氏、岡村一郎氏へ感謝状が贈られた。



開館20周年記念式典

□「島根県立三瓶自然館 20 周年記念誌」の発行

三瓶自然館の20年間の取り組みを記録し、今後の活動へとつなげるために、20周年記念誌を編集、発行した。主な項目は、設立の経緯、企画展などの展示事業、イベントなどの普及啓発、プラネタリウムなどのビジュアルドーム事業、標本収集などの資料収集・調査研究などとし、20年間に実施した事業を記録にとどめた。発行した記念誌は、式典参加者に配布するとともに、県内外の博物館施設、県内の図書館や近隣の小中学校に配布した。

□一日だけの自然史博物館in広島

会 場：県民文化センター展示室（広島県広島市中区）

日 時：11月13日（日） 10:00～16:00

参加者：約300人

内 容：広島の「自然の博物館をつくる会」が主催した標記イベントに協力し、当館から哺乳類や鳥類の剥製、昆虫標本などを運搬・展示した。倉敷市立自然史博物館（岡山）、安佐動物公園（広島市）などの出展もあり、哺乳類の剥製展示では、安佐動物公園の頭骨標本と並べることで、より効果的な展示となった。当館のPRのみならず、自然史博物館の魅力や役割を知ってもらうよい機会となった。

□「神話の国シマネの縁結び（ENMSB）ネットワーク」事業への協力

当該ネットワークは、松江工業高等専門学校が中心となり、島根県全域に科学技術に関する「縁結びネットワーク」を構築し、県民が各分野の科学技術体験を実施できる基盤を確立させることを目標に活動を行っている。平成23年度、当館はネットワーク事業の主要機関として、関連する下記のイベントにおいてブース出展を行った。

イベント名：神話の国シマネの縁結び（ENMSB）ネットワーク 【科学の縁結び祭り】
(平成23年度 第1回)

会 場：くにびきメッセ大展示場（松江市学園南）

日 時：6月18日(土) 10:00～15:00

イベント名：青少年ための科学の祭典2011 島根大会

会 場：出雲科学館（出雲市今市町）

日 時：7月30日(土)、7月31日(日) 各10:00～16:00

イベント名：神話の国シマネの縁結び（ENMSB）ネットワーク 【科学の縁結び祭り】
(平成23年度 第2回)

会 場：くにびきメッセ大展示場（松江市学園南）

日 時：11月12日(土) 10:00～15:00

イベント名：アクアス春祭り2012

会 場：島根県立石見海浜公園Dゾーン中央広場 アクアス前広場（浜田市久代町）

日 時：3月25日(日) 10:00～15:00

4 新聞への寄稿

読売新聞「ふるさと自然散策」（計49回）・島根日日新聞「学芸員日記」（計25回）への原稿執筆を通じて、三瓶や島根の自然の紹介、自然保護についての啓発、情報発信を行った。内容は「Ⅷ 各種資料 6. 資料」に示す。

5 教育学習活動

(1) 自然学講座

□環境セミナー「NHKおやこでエコセミナー」

日 時：6月5日(日) 13:30～14:30

参加者：80名

内 容：NHK環境キャンペーンとの共催セミナー。人気番組「ダーウィンが来た」のチーフプロデューサーである足立泰啓氏を講師に招き、制作の裏話などが紹介された。画像や映像が多数用いられ、参加者も終始興味深く講師の話に聞き入った様子であった。

□2011年のオーロラは？ ―最新オーロラ上映会―

日 時：11月13日(日) 14:30～15:45

参加者：92人

内 容：写真家・中垣哲也氏による映像上映会。前半はオーロラの原理やアラスカの自然についてのスライドショー。後半は音楽に合わせ、オーロラの映像を上映した。観覧者は、活発になったオーロラの高解像度フルドーム映像を堪能した。

(2) 環境教育・環境学習事業

□子どもパークレンジャー（環境省より受託）

日 時：(第1回) 9月24日(土)～25日(日)

(第2回) 2月18日(土)～19日(日)

参加者：15名(延べ21名)

内 容：国立公園で環境省レンジャーと自然体験活動を行うことにより、自然の大切さと自然を守る心を育むことを目的に行う環境省からの受託事業。今年度は、第1回活動では島根森林管理署の指導のもと、ナラ枯れから



子どもパークレンジャー

森を守る活動を体験した。第2回活動では、冬の三瓶山でかんじきを使って厳寒期の自然と動物の暮らしについて観察を行い、豊かな三瓶の自然を体験できた。

□館内案内・テーマ解説

館内案内はアテンダントにより随時実施しているほか、研究員によるテーマ解説（館内展示や特定分野に関する専門的解説）を、予約を受けて実施している。この他、展示の副教材（ワークシート）を利用した館内見学も勧めている。

テーマ解説実施数：19団体 624人。実施状況は「Ⅷ 6. 資料」に示す。

□プラネタリウム学習投影

実施状況は「Ⅱ 1. 3 (1) ②」に示す。

□講師派遣

各種団体や学校、生涯学習施設などの要請に対して、各専門分野の職員が赴き、積極的にその学習活動に協力した。自然環境や環境学習についての講演や観察会などを行った。

実施数：47団体 54人。実施状況は「Ⅷ 6. 資料」に示す。

□スーパーサイエンススクール

・島根県立益田高等学校スーパーサイエンスハイスクール地域巡検

島根県立三瓶自然館サヒメル訪問研修

日 時：7月28日(木) 11:00～14:30 生徒数：1年生20人

内 容：動物分野…鳥類観察と指標生物（講師：星野由美子）

動物分野…花と昆虫の関係（講師：皆木 宏明）

植物分野…植生調査と生存競争（講師：井上 雅仁）

天文分野…太陽観測の方法（講師：竹内 幹蔵）

・島根県立大田高等学校三瓶サイエンスセミナー

島根県立三瓶自然館サヒメル訪問研修

日 時：10月6日(木)・7日(金) 9:30～11:30 生徒数：1年生34人

内 容：研修①…生物（昆虫）から知る自然環境（講師：皆木 宏明）

研修②…森林または草原における植物調査の実習（講師：井上 雅仁）

研修③…天体望遠鏡のしくみと太陽黒点の観察（講師：竹内 幹蔵）

研修④…野鳥から知る自然環境（講師：星野由美子）

(3) JST先進的科学館連携推進事業

1 事業概要

平成23年度より独立行政法人科学技術振興機構（JST）の支援を受けて、先進的科学館連携推進事業を開始した。この事業には全国で4館が採択されており、中四国九州地方では三瓶自然館のみである。三瓶自然館では「自然と人の共生～科学技術からのアプローチ力を育てる～」という題目の下、中国地方の中核館として新たな科学コミュニケーション活動に挑戦し、各学校や科学館・博物館との間に密接なネットワークを構築することを目指している。

平成23年度の事業費は12,503,484円。平成27年度まで5年間の事業を予定している。

2 実施内容

事業は3つの柱を立てて実施した。

①三瓶自然館の施設と立地を活かした活動 ～一般を対象～

i) パネル展「放射線とエネルギーの科学」

期 間：10月15日(土)～11月13日(日)

入場者：4,526人

内 容：連携機関により制作された放射線に関するわかりやすいパネルを展示した。福島原発事故以来、放射線に対する関心が高まっており、多くの来場者があった。



パネル展
「放射線とエネルギーの科学」

ii) 講演会「放射線ってなんだろう」

日 時：10月23日(日) 10:30～12:00 参加者数：28人

内 容：高エネルギー加速器研究機構の佐波俊哉准教授による講演会。ラドン含有量が多いことで有名な三瓶地区の温泉などの話を交えながら、放射線についての基本的な情報の説明があった。また、実際に霧箱を使い放射線の軌跡を見るなど、より具体的でわかりやすい講演となった。

iii) 企画展示「五感のふしぎ

～人の目・虫の目・機械の目～」

期 間：3月10日(土)～3月31日(土)

観覧者：1,848人

(平成24年5月14日まで開催)



企画展示「五感のふしぎ～人の目・虫の目・機械の目～」

iv)企画展示関連イベント

「ダンゴムシの気持ち」

日 時：3月18日(日) 13:00～15:00

参加者数：10家族

内 容：紙工作によりダンゴムシ用の迷路を造り、そこにダンゴムシを放して迷路の通り方を観察した。ダンゴムシの行動には一定の規則性があり、その不思議さを体感することができた。

②小中高等学校と連携した活動

～教員等を対象とした科学コミュニケーション力の向上～

i)教員向け研修「科学のおもしろ実験」

日 時：8月18日(木) 10:00～15:00

参加者数：13人

内 容：小学校の教員を対象とした講座。前半は月の満ち欠けを空間的、視覚的に分かり易く理解させる手法の開発検討、後半は科学的な思考を訓練するためのアクティビティとして有名なGEMSプログラムの体験をした。

ii)教員向け研修「地域を学ぶ」

日 時：8月23日(火) 10:00～15:00

参加者数：11人

内 容：教室での授業ではなかなか理解しにくい地層学習について、地域の自然を学習しながら理解を深めた。とくに、三瓶火山の露頭は野外学習に適しており、最新の研究成果を伝えるとともに現地において観察を実施した。

iii)ワークショップ「計ろう知ろう放射線」

日 時：10月22日(土) 14:00～16:00

参加者数：17人

内 容：高エネルギー加速器研究機構の佐波俊哉准教授によるワークショップ。参加者が霧箱を実際に製作し、放射線の軌跡を観察した。この実験を踏まえて、放射線についての基礎知識を学んだ。また、計測器を使った放射線量の測定などもあり、身近な放射線についても知るとともに、その性質と危険性についての理解を深めた。



計ろう知ろう放射線

iv)ワークショップ

「エネルギー問題、どうする？」

日 時：12月21日(水) 15:00～17:00

参加者数：24人

内 容：日本科学未来館の今岡由佳子氏、中村洋子氏による、新しいコミュニケーション方法として広まりつつある「ジグソー法」を使ったワークショップ。エネルギー問題を題材に、ジグソー法の体験と習得を目指した。

v)教員向けプログラム①「太陽電池を作ろう！」

日 時：2月24日(金) 15:00～17:00 参加者数：20人

内 容：北三瓶中学校野村啓介教諭の指導により、自然エネルギーの利用拡大を目指し、次世代の太陽電池として研究開発が進められている色素増感型太陽電池について学習した。一般的な太陽電池と色素増感型太陽電池について、しくみや性質を学習した後、実際に製作して発電を体験した。

vi)教員向けプログラム②「ジグソー法体験ワークショップ、エネルギー問題どうする？」

日 時：3月2日(金) 15:00～17:00 参加者数：12人

内 容：12月に実施して好評であったジグソー法の体験ワークショップを、三瓶自然館職員が講師となって実施した。前回に都合で参加できなかった教員等を中心に、熱心な体験会となった。

vii)こども向けプログラム「風の力で電気を作ろう」

日 時：3月20日(火) 10:00～12:00 参加者数：12家族

内 容：平成25年度に発足を予定している、子ども対象のクラブの試行会として実施。風の子楽習館館長岩崎知久氏の指導の下、自然エネルギーを利用した風力発電について学習した後、実際に製作して発電を体験した。

viii)ホームページの作成と公開

教員の横のつながりを深めるため、平成24年度にサヒメル理科ネットを発足する予定である。この組織の周知と普及、運営を図るためホームページを制作し公開した。

③博物館・科学館・高専・大学等と連携した活動

～地域の科学技術にも目を向け、

科学技術や最先端の研究に興味がある人々を対象とした広域的な活動～
今年度は平成24年度実施予定の連携講座の試行会として実施した。

i)サヒメル・出雲科学館連携講座「星空のはなし」

日 時：10月8日(土) 場 所：出雲科学館 参加者数：約100人

内 容：前半は、サヒメルの矢田研究員による星空のはなし。立体映像による太陽系の説明や今夜の星空案内、最新の天文学の話題提供などを行った。
後半は、出雲天文同好会の協力により、望遠鏡で月や惑星、銀河などを観察した。

ii)さんべ祭&しまねエコフェスタ2011における連携展示

連携機関：松江工業高等専門学校、出雲科学館、しまね海洋館アクアス

日 時：10月22日(土) 参加者：約2,000人

iii)サヒメルinアクアス「天体望遠鏡を作ってみよう」

日 時：1月28日(土) 場 所：しまね海洋館アクアス 参加者：10家族

内 容：親子で天体望遠鏡を組み立てた。水族館でのイベントなので、海と関わりのある星座を説明するなどして、天空に描かれた大きな海に対する想像をふくらませた。また、組み立てた望遠鏡を使ってピント合わせの練習をしたほか、観察シートを

配布して実際に夜に観察した結果を三瓶自然館へ提出してもらうなど、今後につながる活動も行った。



天体望遠鏡を作ってみよう

iv) サヒメルin出雲科学館

「天体望遠鏡を作ってみよう」

日 時：1月29日(日)

場 所：出雲科学館 参加者：14家族

内 容：親子で天体望遠鏡を組み立てた。

レンズのしくみなど科学的な質問に答えながら、科学技術などに対する興味関心を高める工夫をした。また、観察シートを配布して実際に夜に観察した結果を三瓶自然館へ提出してもらうなど、今後につながる活動も行った。

v) みんなで楽しむ天文教室「望遠鏡を作って、星を見よう！」

日 時：1月31日(火)、2月1日(水) 場 所：岩手県大槌町 参加者数：29名

内 容：(詳細は、Ⅶ地域との連携 5. 東日本大震災への対応を参照)

(4) 各種研修等の受け入れ

□博物館実習

- ・島根大学 11月15日(火)～20日(日) 実習生：13名
- ・個別 5名(高知大学1名、都留文科大学1名、八洲学園大学1名、広島大学2名)

□インターンシップ(職場体験)

- ・大学生 1名(鳥取大学1名)
- ・高校生 1名(仁摩高校1名)
- ・中学生 4名(大田第一中学校2名、北三瓶中学校1名、江津市立青陵中学校1名)

□教育関係研修

- ・広島県教育委員会初任者研修

日 時：7月27日(水)・28日(木) 13:00～16:00 新任教員：80名

内 容：天文…学校にある天体望遠鏡を活用しよう(講師：竹内 幹蔵)

植物…校庭でできる草花あそび(講師：井上 雅仁)

昆虫…昆虫の探し方と観察方法(講師：皆木 宏明)

鳥類…身近な自然 野鳥を観察してみよう(講師：星野由美子)

- ・大田市新採用新転入教職員研修

日 時：8月3日(水) 14:00～15:20

内 容：サヒメル活用法・教育的活用のための展示案内(講師：河野 重範)

- ・教員免許状更新講習(主催：国立三瓶青少年交流の家)

日 時：8月5日(金)～7日(日) 9:30～11:30 36名

内 容：天文…授業に活かせる天体観察の指導法【実習】(講師：竹内 幹蔵)

植物…子ども達がワクワクする自然観察の技術【講義・実習】(講師：葭矢 崇司)

□その他

- ・国際ボランティア受け入れ（国際教育交換協議会 C I E E 協力事業）

日 時：8月3日(水)～8月16日(火)

ボランティア：3名 コーディネーター：1名

内 容：今年は韓国、ロシア、フランスから各1名のボランティア、コーディネーターには、愛知県から大学生1名を迎えて様々な活動を行った。標本整理などの博物館業務補助のほか、ゆかたを着て「伝統的七夕」のイベントで来館者対応をするなど、日本文化にふれる機会も提供した。

6 天体観察会

20cmクーデ式屈折望遠鏡4基と60cm大型反射望遠鏡を活用し、定期・予約観察会のほか、天文現象などにあわせた様々なテーマの観察会を実施した。

合計参加者数：8,124人

(1) 定期天体観察会

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
参加人数	58	61	132	408	166	310	362	152	84	89	239	103	2,164

開 催 日：毎週土曜日（一回45分）

開始時刻：（4～8月）20時～、21時～、（9,10,11,3月）19時～、20時～、
（12～2月）19時～

(2) 予約天体観察会

当館の天体観測施設で行う学校団体・一般団体を対象にした天体観察会で、土曜日と休館を除く日に予約により実施している。曇天・雨天時には希望に応じ、プラネタリウムの投影を行う。予約団体の多くは、国立三瓶青少年交流の家において宿泊研修を行う学校団体であった。実施状況は「Ⅷ 各種資料 6. 資料」に示す。

実施数：88団体 4,813人

(3) 特別天体観察会

□ゴールデンウィーク天体観察会

日 時：5月2日(月)～4日(水) 20時～、21時～ 参加人数：292人

三日間とも晴れたが、黄砂の影響もあり空気の透明度は悪かった。土星やプレセペ星団、春の二重星などを中心に観察した。

□七夕まつり

日 時：8月6日(土) 20時～、21時～ 参加人数：121人

日中は晴れ間もあったが夜は曇ったため、プラネタリウムの投影を行った。

□夏休み天体観察会

日 時：8月12日(金)～15日(月) 20時～、21時～ 参加人数：665人

12,14日は晴天に恵まれ、月や土星、夏の天体を観察した。13,15日は曇天のためプラネタリウムの代替投影を行った。

□中秋の名月観察会

日 時：9月12日(月) 19:00～20:00 参加人数：52人

旧暦8月15日のお月見観察会。時々雲に隠されたものの、見事な名月となり、参加者は望遠鏡による月の観察、茶菓などで楽しんだ。

□天文教室「PCカメラを使って星を撮影しよう」＊

日 時：11月6日(日) 19:00～21:00

参加人数：3人

デジタル動画撮影された天体映像から、コンピューター処理によって鮮明な天体画像を得るイベントだが、悪天候のため過去の素材からの画像処理のみ実習した。

□天文教室

「一眼レフデジタルカメラで天体写真」＊

日 時：3月20日(火) 19:00～21:00

参加者：14人

内 容：予定していた3月11日が悪天候だったため、延期して開催。好条件の空で大型望遠鏡、小型望遠鏡にカメラを取り付けての天体撮影、また簡易赤道儀による星野写真撮影などを行い、季節を代表する天体や星座の画像を取得できた。



一眼レフデジタルカメラで天体写真

(＊) このイベントは「神話の国シマネの縁結び（E N M S B）ネットワーク事業」の一環として実施した。

7 自然観察会

(1) 定期自然観察会「北の原お散歩ツアー」

日 時：毎週土曜日（4～11月）

14:30～15:00

三瓶北の原草原で見頃をむかえた季節の花や景色を楽しみながら行う自然観察会。来館者が気軽に参加できるよう30分で実施。



北の原お散歩ツアー

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
参加人数	23(5)	28(4)	39(4)	46(5)	62(4)	36(4)	36(5)	12(4)	282(35)

() 内は回数 ※悪天候時は中止

(2) 予約自然観察会

事前の予約に応じて行う自然観察会で学校団体等を中心に好評を得ている。実施状況は「Ⅷ 各種資料 6. 資料」に示す。

実施数：64団体 2,373人

3. 資料の収集・保存

1 自然系博物標本の収集と整理

□植物標本

内 容：杵村喜則氏収集のさく葉標本の整理、封入標本とキノコ類のレプリカ製作、各種調査にあわせた植物標本の収集を行った。データベース化された標本情報は、国立科学博物館のS-netでの公開、GBIFでの公開を予定している。また、島根大学と協力して、館所蔵のさく葉標本のスキャニングを行い、同大学内のホームページ上で画像を公開した。

杵村喜則氏収集さく葉標本のデータベース化と登録：4,000点

アクリル封入標本の製作（木本類）：14点

植物レプリカの製作（キノコ類レプリカ）：2点

□動物標本

内 容：①本年度製作した動物標本は鳥類、哺乳類併せて次の18点である。

組立骨格標本：キツネ

本剥製標本： ノウサギ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、コテングコウモリ、コキクガシラコウモリ、アブラコウモリ、オオアシトガリネズミ、イワツバメ、シジュウカラ、ミソサザイ、フクロウ、コガラ、カワラヒワ（成・幼）、カシラダカ、アカエリヒレアシシギ、ハシブトガラス

②伊達鳥類コレクションの再整理。標本ラベルと目録との不一致や種名の間違いなどを訂正、新ラベルの装着などの作業を3カ年計画で実施。今年度は、再整理のための手順の確認や手法の確立などを行った。

□昆虫標本

内 容：寄贈標本及び調査研究等により、収集した昆虫類の標本化と同定整理作業を進め、寄贈標本を中心に新たに4,452点の標本データの入力を行った。特に本年度は、昨年寄贈を受けた永田征氏の沖縄チョウ類標本を展示用に整理作業を行い春の企画展で活用し好評であった。今年度は、新たに益田市の中村裕子氏から島根産のチョウ類標本約100箱の寄贈を受け、現在整理作業を進めている。

□地学標本

内 容：「三瓶火山・松井資試料データベース」（2012年7月刊行）以降に三瓶山周辺で採取された火山灰試料の整理とデータ化を行った。火山灰試料、露頭情報をセットで整理することで、資試料の恒久的な保管を目的としている。

□天体画像

内 容：当館の天体観測施設において、天文現象を映像資料として記録した。特に、今年度は、木星や土星などの惑星、いて座の散光星雲などの銀河系内天体、M51子もち銀河に出現した超新星などの撮影を行った。

主な撮影天体：M8、M20、土星、木星、金星など

2 関連図書の収集

自然科学に関する図書や雑誌は、購入などにより収集に努めた。図書や雑誌の一部は常設の図書コーナーなどで来館者が閲覧できるようにしている。

購入図書：91冊

3 資料の保守燻蒸

資料劣化の原因となる害虫やカビの防除を目的として燻蒸を行い、資料の劣化防止に努めた。収蔵庫の燻蒸は専門業者によって年2回実施した。展示、収集した資料を収蔵庫へ納める前や、常設展示の資料については、当館の大型常圧燻蒸庫を用いて適宜燻蒸を行った。

□収蔵庫の全室密閉燻蒸

対 象：第二乾燥収蔵庫と液浸標本庫の庫内及び収蔵資料

期 間：第1回 10月11日、第2回 3月6日

□燻蒸設備を用いた燻蒸

対 象：鳥獣剥製、昆虫標本、植物さく葉標本、展示用落葉など

期 間：適宜実施

4. 施設PR事業

1 広報営業活動

本年度は、三瓶自然館開館20周年記念のオリジナルプラネタリウム番組と、夏の特別企画展を集客の核と位置づけ広報活動を展開した。「秘密結社鷹の爪」のプラネタリウム番組は、松江市内巡回の一畑バスの広告看板掲示、広島市のアストラムラインおよびの広電電車への車内広告、TVCMなど、重点的に広告展開した。また、ツイッター上で「鷹の爪団の吉田君」とテンピーが交流を行ったことも効果的で、キャラクターの全国的な知名度と人気の効果も相まって年間を通して全国から多数のファンを集めた。

夏の特別企画展では、従来から効果を上げている県内及び広島市内の全児童への無料招待券配布に合わせ、宝石の無料プレゼントを取り入れた。券の回収数は6千枚を超え、一定の成果を上げたと考えられる。

2 情報発信

□ホームページ

利用者にとっての使いやすさとスマートフォンなど小型端末での表示を意識して、シンプルな構成を心がけて運営した。伝えたい情報が利用者到的確に届くよう、イベント等のタイミングに応じて随時更新した。地域連携による情報発信として、秋に三瓶観光リフトの協力を得て、紅葉情報をほぼ毎日更新した。また、北の原キャンプ場のスキーレンタルや食材販売のページを設けることで、売上げの向上につながった。

□ケーブルテレビ（ぎんざんテレビ）

地元ケーブルテレビ局とタイアップして、三瓶自然館の情報発信番組「さんべ発！サヒメルnavi」を毎月制作し、三瓶山や島根の自然情報を提供している。昨年から取り組んできた

番組の質の向上が認められ、隠岐を除く県内全てのケーブルテレビ局で定期放送がされることとなり、視聴世帯数は14万世帯10倍に増え、三瓶やサヒメルのPRに大きく貢献した。

平成23年度「さんべ発! サヒメル navi」放送内容

放送日	放送内容	放送日	放送内容
4/15. 29	お宝拝見!「鉱物なんでも鑑定会」の紹介	10/7. 28	癒しの空間!「リラクゼーション・プラネタリウムVer2」
	プラネタリウム新番組紹介		アテンダントのお話マルシェ「さんべ祭&エコフェスタ」
	春の企画展「虫たちの百面相」のみどころ紹介		特別上映番組「いきものがたり」
5/13. 27	春の三瓶で観察できる鳥の紹介（さえぎりなども）	11/11. 25	サヒメル探検隊「久利の底なし淵を探せ!」
	春の北の原に咲く花や、姫逃池のカキツバタの紹介		ビジュアルドーム番組のラインナップ紹介
	サヒメル探検隊「グリーンタフを探せ!」		アタリの渡りを紹介
6/10. 24	夏の企画展「鉱物」 予告編	12/9. 23	アテンダントのお話マルシェ「北の原ファンタジーって何?」
	本館2Fいきもの観察コーナーの紹介		冬の企画展「第32回SSP展」
	この時期の生き物紹介「ホタル」		冬も満喫!北の原キャンプ場
7/8. 22	サヒメル探検隊「あられ石の産地、松代鉱山を探せ!」	1/13. 27	年頭挨拶 龍副館長
	プラネタリウム新番組紹介「秘密結社 鷹の爪」		アテンダントのお話マルシェ「北の原ファンタジー」
	特別企画展「鉱物」開催直前情報!		天文大特集
	20周年 安藤館長挨拶	2/10. 24	バックヤード紹介(第1 乾燥収蔵庫)
8/11. 26	出雲農林 移動動物園がやって来る!		サヒメル探検隊!「鬼村の鬼岩」
	魔法の鍋「ダッチオーブンについて」		埋没林公園イベント紹介(ユキワリイチゲと埋没林カフェ)
	特別企画展「鉱物」見どころ情報!	3/9. 23	春の企画展「五感のふしぎ」のみどころ紹介
9/9. 23	サヒメル探検隊「グリーンタフと珪化木を探せ!」		バックヤード紹介(鉱物岩石収蔵庫)
	まだまだやってます!特別企画展「鉱物」		
	秋の昆虫と植物について		

□ミュージアムニュース「さんべ発!」の発行

三瓶自然館のイベントや島根の自然に関する情報、環境事業部門の活動情報を取り上げ、隔月で年6回、3,000部ずつ発行した。友の会会員、学校、図書館、県内市町村等に配布し、当財団の活動を周知する媒体となっている。



5. 博物館ボランティアの活動

1 博物館ボランティア「三瓶自然館インタープリター」について

三瓶自然館インタープリターは、三瓶を訪れる人たちが、生きた自然に触れ、自然の不思議さや素晴らしさを感じ、自然を愛する心や守る心を育むことを手助けすること(インタープリテーション)を行うために設置されたボランティアスタッフである。平成4年の研修の後、平成5年から活動を行っている。

館の設置目的を理解し、自然環境の保全に関心を持つ希望者に、委嘱登録している。新規の活動希望者は随時受け付けており、登録希望者としての研修期間を経た後、正式に委嘱登録することとしている。

2 平成23年度の活動状況

□登録者数

登 録 種 別	人 数	活動率
委 嘱 登 録 者	56	61%
委嘱登録希望者	6	50%
合 計	62	60%

男女比	男 性	43人
	女 性	19人

□活動実績

館が実施する各種事業に協力してもらい、主に参加者や来館者に対する解説や案内を行っている。主な活動内容は、①館主催イベントにおける参加者対応や企画・実施・実施補助、②外部から依頼を受けた自然観察会や定期観察会での自然解説、③毎週土曜日の定期天体観察会での補助や案内、④新館4Fのハンズオンコーナーでの工作や来館者対応、⑤北の原の植物・鳥類調査（環境省のモニタリングサイト1000）などである。登録者のうち37人が何らかの事業に参加しており（活動率60%）、延べ568人の協力を得た。

平成23年度の主な協力事業

日 付	事 業 名	参加人数
4/24	早春の男三瓶山を歩く	12
4/29	オキナグサ観察会	6
5/22	カキツバタ祭り	7
6/4-5	ビギナーズ・キャンプセミナー①	4
6/11-12	ビギナーズ・キャンプセミナー②	1
7/30	夏の夜の昆虫観察	9
8/8	さんべ冒険キャンプ	2
8/14	秋の七草観察会	5
9/24-25	子どもパークレンジャー	6
10/22-23	さんべ祭	9
11/6	ゆっくり歩く紅葉の室ノ内	13
2/5	歩くスキーでアニマルトラッキング	14
2/18-19	子どもパークレンジャー	8
	（以下複数回実施事業等）	（以下延べ人数）
	北の原お散歩ツアー	21
	工作コーナー	73
	自然観察会	26
	天体観察会	162
	親子で作ろう工作教室	7
	調査	81
	研修	35
	会議・打ち合わせ等	59

※単位：人

6. 三瓶小豆原埋没林公園

1 運 営

世界的にも貴重な自然の遺産である小豆原埋没林の意義や価値を、スタッフが紹介することで、来場者に埋没林の魅力と自然の不思議を感じてもらうことを目指し、運営にあたった。来場者の満足度は高いと感じられ、口コミによる来場につながっているが、来場者数は前年に引き続き減少傾向にある。

近年の傾向同様、集客範囲は西日本を中心に、全国に広がっている。このことは、同施設が観光素材としての潜在力を持つことを示すと思われる。効果的な情報発信により、集客増を図ることが現状の課題となっている。

2 普及啓発

(1) イベント

□埋没林カフェ

日 時：4月10日(日)、5月8日(日)、6月12日(日)、
7月10日(日)、8月21日(日)、9月11日(日)、
10月9日(日)、11月13日(日)
14:00～15:00

参加者：約140人

内 容：天井裏、床面から埋没林を見るバックヤードツアー
と芝生園地に設置のベンチでの茶話会を開催した。



埋没林カフェ

□埋没林フェスティバル2011

日 時：5月1日(日) 10:00～15:00 参加者：360人(当日の入園者)、62人(茶会分)

内 容：地元自治会、大田市内の茶道グループ、多根神楽団の協力を得て、神楽上演と野点、
地元物産販売を行った。

□ユキワリイチゲを探そう

日 時：3月11日(日) 10:00～12:00

参加者：14人

内 容：多根地区のユキワリイチゲを守る会
の協力を得て、多根ユキワリイチゲ
自生地において観察会を実施した。



ユキワリイチゲを探そう

(2) 展示解説

予約団体については、予約時に解説希望の有無を確認し、その大部分に解説を実施した。また、予約に限らず、スタッフの対応が可能な限り、解説を行うことで埋没林の魅力を伝えることに務めた。

実施数：131団体, 4737人

3 埋没木の保存検討

前年度から、保存検討事業は島根県自然環境課が主体となり実施している。今年度は、掘り出し確認調査等が計画されていたが、震災の影響もあり、未実施となった。

当財団では、埋め戻し保存の埋没木の経過観察を目的に、園地内の地下水について、週1回の水位測定と月1回の水質分析を行った。

4 埋没林公園活用検討会

施設の利用増加策を検討するため、当財団と島根県自然環境課で協議した。

平成24年度からの開園時間の30分繰り上げ（9:30→9:00）や、県内市町村別の無料キャンペーン等を試行することなどを検討した。

7. 施設管理・フィールド管理

平成22年度から平成26年度までの指定管理施設の管理業務は、「島根県立三瓶自然館及びその附属施設の管理運営に関する仕様書・協定書」を遵守するとともに、指定管理者申請時（H21.10）に策定した下記の管理業務基本方針に基づき、各年度当初に事業計画を定め、業務にあたることとし、本年度においても、管理の合理化を継続しつつ、施設・フィールド両面における危機管理の再考・理解の共有をはかり、万が一を想定した危機対応能力の向上に努めた。

【指定管理期間での管理業務基本方針】

- ・管理者の都合ではなく利用者のための管理
- ・県民の財産をお預かりしている意識
- ・自然環境や地球環境に優しい管理

1 各管理にあたっての特記事項

(1) 設備・備品類の管理

管理業務基本方針に基づき、専門業者による定期的なメンテナンスのみならず、職員による日常的な点検を実施し、トラブルが発生する前での早期発見、早期対応に努めている。

この他の設備・備品類についても、適正な維持・運用を図り、故障が発生した場合も県と密接に連携を取りながら、迅速な対応を行った。

自然館開館20周年を迎えるにあたり、その間更新されず老朽化を迎えた設備なども多く存在する。法的な更新以外にも、メーカーの交換推奨時期を迎えた設備も多く、突発的な故障により運営に支障をきたさないよう、島根県とともに将来的な更新を想定した中長期修繕計画の策定を始めた。

(2) 野外環境の管理

管理域（三瓶山北の原～東の原）において全3回の刈り払い作業を実施したほか、三瓶山登山道（姫逃コース、名号コース）の定期的な点検、風倒木等の処理作業を行い、来館者・来園者、登山者の快適な利用に資するよう環境管理を行った。

また、学芸課と連携し、草原性植物の保全と管理に関する調査の一環として北の原草原域の回復作業を実施したほか、姫逃池のカキツバタ群落保護のため、ボランティアと連携した除草作業を行った。

なお、これらの作業にあたっては、自然公園法の指定植物、レッドデータブックに掲載される稀少植物の取り扱いに細心の注意を払っている。

2 コスト縮減状況

管理コストの縮減は、指定管理業務における至上の課題として取り組み、各管理費項目で対前年比減を目標に縮減対策の強化・徹底を図ってきた。

光熱水費関係では、一昨年に導入したバイオマス空調設備の運転設定の変更により、電気等の消費量を縮減することに成功し、コストにおいて前年比5%減を達成した。

設備保守費（外注委託）では、本年より新プラネタリウム設備（H22整備）の保守業務が追加されたため1割近い増加となったが、経常事務費でも7.4%の縮減を達成し、管理コストの増加を3%程度に納めた。

◆管理コスト縮減状況（自然館及び小豆原埋没林公園の合計、単位：千円）

項 目	平成 22 年度 決 算 額 (A)	平成 23 年度 決 算 見 込 (B)	縮 減 率 (B/A－1)＊100
光 熱 水 費	22,452	21,318	△5.1%
設備保守費(外注委託)	54,649	59,873	9.6%
経 常 事 務 費	14,361	13,296	△7.4%
合 計	91,462	94,487	3.3%

3 保安・危機管理

当施設における危機管理においては、火災や設備故障などのハード的な障害から、犯罪や人身事故などの人的なもの、さらにスズメバチなどの危険生物や豪雨、倒木、積雪等による自然的なものなど、多様な状況が想定されるが、当財団では「来館者・来園者の安全確保」を第一優先事項とし、危機事態の防止・回避、発生した場合の対応にあたっている。

本年度では、危機管理マニュアルとともに消防・避難訓練の在り方を見直し、各施設毎に年3回以上の訓練を行ったほか、職員が自主的に防災設備の勉強会を実施し、職員一同で当施設における防災体制の理解、被災時の対応などの再確認に取り組んだ。

また、北の原多目的広場の一画が島根県が実施するドクターヘリの緊急着陸先として指定され、地域の救急体制が強化された。

Ⅲ. 調査研究・普及啓発事業

(島根県立三瓶自然館及び附属施設の運営事業)

1. 事業概要

地域の自然史解明や地域の自然環境保全に資する調査研究や普及啓発を行っている。また、外部の行政機関などからの、調査研究や資料収集に関する事業や、普及啓発や環境教育に関する事業の依頼については、当財団の設立趣旨や、当財団がもつ専門知識や専門スタッフの必要性があるものについて、受託・協力している。

2. 調査研究・資料整理

1 研究項目と成果概要

□三瓶自然館60cm反射望遠鏡を使った太陽系外惑星トランジット観測

国内の太陽系外惑星トランジット観測ネットワークに参加し、観測結果や観測技術について情報交換を行うとともに、海外からの要請に応じて、トランジット国際共同観測を行った。(矢田猛士)

□隠岐西郷湾における沿岸生態系調査

隠岐諸島周辺海域における底生生物の基礎資料を得ることを目的として、西郷港内において海底堆積物の採取を行った。本調査で採取した資料は、各種化学分析とメイオベントス分析を組み合わせた層位古生物学的手法で解析を行い、西郷港における近現代の内湾環境変遷史の復元を行う予定である。(河野重範)

□ふれあいの里奥出雲公園における鳥類調査

本調査では、ふれあいの里奥出雲公園における鳥類の生息状況を把握することを目的として実施しており本年度で4年目となる。当公園では希少種のアカショウビンが複数ペア繁殖し、標識調査においては、3年連続アカショウビンの同一個体が捕獲されるなど、夏鳥の重要な繁殖地となっていることが明らかになった。また、本年度には公園内の森林を構成するアベマキ等に、ナラ枯れによる枯死がめだつようになり、環境の変化が懸念される。それによる鳥類相の変化にも注目する必要があると思われるため、今後とも継続して調査を実施していく予定である。(星野由美子)

□三瓶自然館野外観察コーナー鳥類調査

三瓶自然館では、本館に野外観察コーナーが設置され、野鳥が水場に飛来する姿を観察することができる。ここには館周辺で繁殖、棲息する鳥類が飛来するが、その種類、数を把握することを目的として調査を実施している。現在、第2期の調査を行っており(第1期は平成12～17年)出現種や飛来数の変化について検証を行う。平成23年度は前年度の60%程度の飛来数となっており、その原因を検討中。(星野由美子)

□緊急雇用創出臨時特例基金事業(島根県より受託)

平成22年度に続き、三瓶自然館に収蔵されている未整理標本のうち、植物のさく葉標本を中心に、クリーニング、台紙への貼付などの作業を行った。1年間で10,000点を超えるさく葉標

本の台紙貼りをを行った。(井上雅仁)

□石見銀山生物調査(島根県教育委員会より受託)

石見銀山遺跡における世界遺産登録後の自然環境の変化を追跡するために、コアゾーンを中心に動植物のモニタリング調査を実施した。大久保間歩のコウモリについても、一般公開による影響の有無を追跡調査した。(大畑純二・三島秀夫・井上雅仁・安藤誠也)

□三浦正昆虫館標本整理・活用業務(浜田市より受託)

浜田市三隅町出身の三浦正島根大学名誉教授が、浜田市に寄贈された昆虫標本の同定整理作業。合わせて収蔵展示を行っている三浦正昆虫館での標本管理の指導、昆虫館を会場に地元市民との昆虫採集や標本作成イベントを実施した。(皆木宏明・三島秀夫)

□三浦正昆虫館収蔵標本整理事業に係る製本資料作成監修業務(浜田市より受託)

三浦正昆虫館で収蔵している標本の目録作成の指導業務。浜田市が雇用したスタッフ2名にデータの取りまとめや標本の取り扱い方法、目録の構成や作成の手順について指導した。また目録作成に使用する標本の撮影なども行った。(皆木宏明・三島秀夫)

□ウスイロヒョウモンモドキ生息状況調査業務(環境省より受託)

絶滅危惧種で県内では三瓶山にしか生息しない、ウスイロヒョウモンモドキの保護を目的とした生息状況の調査。今年度は、昨年度実施した女三瓶山及び男三瓶山山頂だけでなく、生息可能性のある三瓶山に残る草原環境を重点的に調査したが成虫は確認できなかった。本種は2年続けて成虫が確認されておらず、三瓶山での生息状況はかなり厳しいと推測される。来年度も生息の確認を最優先に調査を進め、早急に三瓶山での生息状況を明らかにするとともに保護活動に繋げる必要がある。(皆木宏明)

□重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)

(公益財団法人日本自然保護協会より受託)

環境省が生物多様性国家戦略の中で提唱しているプロジェクトで、2003年からスタートした。全国にサイトを設け動植物の生息状況を長期的にモニタリングすることで、生態系の劣化やその他問題点の兆候を早期に発見し、生物多様性の適切な保全のための対策に資することを目的としている。サイトは、森林、里地里山、湿地などの生態系タイプごとに分けられ、三瓶山北の原は、全国的に減少しつつある草地があることから、里地里山タイプのコアサイトとして主に植物と鳥類の調査を実施中。(井上雅仁・星野由美子)

□レッドデータブック改訂作業業務(島根県より受託)

平成25年度および26年度に予定されている県版レッドデータブックの改訂にあたり、現地調査およびそのコーディネート、改訂委員による打合せ調整などを行った。(大畑純二・井上雅仁・星野由美子・皆木宏明)

2 研究成果の公表(*印は館外の研究者)

□論文、報告書

野村律夫*・河野重範・辻本 彰*(2011) 島根県佐陀川に記録された *Ammonia* イベント、*Laguna* (汽水域研究), 18, 1-12.

- Irizuki, T.*, Takimoto, A.*, Sako, M.*, Nomura, R.*, Kakuno, K.*, Wanishi, A.* and Kawano, S. (2011) The influences of various anthropogenic sources of deterioration on meiobenthos (Ostracoda) over the last 100 years in Suo-Nada in the Seto Inland Sea, southwest Japan. *Marine Pollution Bulletin*, 62, 2030-2041.
- 河野重範・辻本 彰*・鶴飼宏明*・入月俊明*・野村律夫* (2011) 熊本県天草市五和町の更新統小串層から産出した微化石群集とその古環境. *化石研究会会誌*, 44, 1-10.
- Nishioka, Y.*, Hirayama, R.*, Kawano, S., Tomida, Y.* and Takai, M.* (2011) X-ray computed tomography examination of a fossil beaver tooth from the lower Miocene Koura Formation of western Japan. *Paleontological Research*, 15, 43-50.
- 大畑純二・井上雅仁・三島秀夫 (2012) 大久保間歩のコウモリ保護と観光の両立. *世界遺産石見銀山の研究* 2:51-58.
- 大畑純二 (2012) 哺乳類骨格図 (Ⅲ). 島根県立三瓶自然館研究報告 10:39-62
- 大畑純二・皆木宏明 (2012) クロゲンセイの分布と生態に関する若干の知見. 島根県立三瓶自然館研究報告 10:19-33
- 野尻湖哺乳類グループ [安藤誠也を含む共同執筆] (2012) 第18次野尻湖発掘で産出した脊椎動物化石. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 20: 35-47.
- 三島秀夫 (2012) 注目すべき島根県のガ数種2011. 島根県立三瓶自然館研究報告 10:63-64
- 皆木宏明 (2012) 島根県におけるキノボリトタテグモの分布について. 島根県立三瓶自然館研究報告 10:35-38
- 川野敬介*・皆木宏明 (2011) 島根県におけるホタル類の分布記録. ホシザキグリーン財団研究報告 15:235-247.
- 井上雅仁・三島秀夫・大畑純二 (2012) 石見銀山遺跡およびバッファーズーンの相観植生図について. *世界遺産石見銀山の研究* 2:45-50.
- 井上雅仁・松村美雪・中西正実・柳浦正夫 (2012) タンポポ調査・西日本2010で確認された島根県タンポポについて. 島根県立三瓶自然館研究報告 10:9-18
- 高橋佳孝・井上雅仁・堤 道生 (2012) ススキ (*Miscanthus sinensis*) 型草地植生に及ぼす火入れと放牧の影響. 島根県立三瓶自然館研究報告 10:1-8
- 森口淳樹*・山根 渉*・前田修宏*・萬代 功*・Jeong Yu Neung*・井上雅仁・上野 誠*・松崎 貴*・林 蘇娟*・秋廣高志* (2012) 植物標本画像の高速デジタル化法の確立と維持管理が簡便なデジタル植物標本館の構築. *Bunrui* 12(1): 41-52.
- Tani,A.*, Hasegawa,N.*, Norizawa,K.*, Yada,T. and Ikeya,M.* Radiation-induced radicals in hydratedmagnesiumsulfate, *Radiation Measurements*, in press

□学会・研究会等での発表

- 竹内幹蔵 (2011.6) プラネタリウム番組「秘密結社 鷹の爪 THE PLANETARIUMーブラックホール作戦ー (仮題)」の制作にあたって. 全国プラネタリウム大会・琵琶湖2011 (滋賀) .
- 矢田猛士 (2011.6) フリーソフトを使った高解像度木星動画の作成. 日本公開天文台協会 第6回全国大会 (兵庫) .
- 竹内幹蔵・龍 善暢・太田哲朗・矢田猛士 (2011.8) プラネタリウムでの星座早見の使い方の指導. 日本理科教育学会第61回全国大会 (松江)
- 内川貴浩*・蜷川清隆*・山本 勲*・河野重範 (2011.5) 家庭用ラドンモニターを用いた洞窟中のラドン濃度測定Ⅱ. 日本地球惑科学連合2011年大会 (千葉).

- 荻野慎太郎*・平山 廉*・河野重範 (2011.7) 島根県美保関地域の下部中新統古浦層から産出した食肉類化石. 日本古生物学会2011年年会 (金沢).
- 佐古恵美*・廣瀬孝太郎*・入月俊明*・伊藤久代*・野村律夫*・河野重範 (2011.7) 周防灘笠戸湾における過去50年間の珪藻群集と貝形虫群集の比較. 日本古生物学会2011年年会 (金沢).
- 野村律夫*・小藤久毅*・井上睦夫*・河野重範・辻本 彰* (2011.7) 汽水湖の有孔虫と湖水の滞留時間 (予察). 日本古生物学会2011年年会 (金沢).
- 辻本 彰*・野村律夫*・河野重範 (2011.7) 有孔虫が示す人工河川・佐陀川における近年の環境変化. 日本古生物学会2011年年会 (金沢).
- 入月俊明*・滝本紋子*・佐古恵美*・野村律夫*・角野浩二*・和西昭仁*・河野重範 (2011.7) 近年の内湾貝形虫の群集変化と水質・底質との関連性—周防灘を例として—. 日本古生物学会2011年年会 (金沢).
- 河野重範・倉見 綾*・松本一郎*・野村律夫* (2011.8) 博物館を活用した小学校5年「流れる水のはたらき」の教育プログラム開発と実践. 日本理科教育学会第61回全国大会 (松江).
- 野村律夫*・辻本 彰*・河野重範・福田賢一* (2011.8) 岡山県児島湾におけるラジウム同位体を利用した水塊の動きと有孔虫群集 (メイオベントス) の分布. 第19回瀬戸内海研究フォーラムin大分 (大分).
- 平山 廉*・河野重範・藺田哲平* (2011.9) 静的破碎剤 (S-マイト) を用いた大型化石の採集. 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会 (水戸).
- 辻本 彰*・野村律夫*・福田賢一*・河野重範 (2011.9) 瀬戸内海児島湾における最近の底生有孔虫群集の変化. 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会 (水戸).
- 野村律夫*・河野重範・辻本 彰* (2011.9) 有孔虫群集からみた宍道湖の環境変動 (再検討). 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会 (水戸).
- 河野重範・辻本 彰*・野村律夫*・福田賢一*・入月俊明* (2011.9) 岡山県児島湾奥部のメイオベントス (貝形虫・有孔虫) 群集と内湾環境. 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会 (水戸).
- 蜷川清隆*・西戸裕嗣*・河野重範・野村律夫* (2011.9) カソードルミネッセンスによる珪化木の微細組織分析. 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会 (水戸).
- Nomura, R.*, Tsujimoto, A.* and Kawano, S. (2011.9) Significance of river sediments on brackish organisms in coastal lagoon. LOICZ (Land-Ocean Interactions in the Coastal Zone) Open Science Conference 2011 (Yantai, China).
- 蜷川清隆*・田原 吏*・西戸裕嗣*・河野重範・湯川弘一*・野村律夫*・Gucsik A.*・Berczi Sz.* (2011.12) カソードルミネッセンスによる珪化木の微細組織分析. 2011年度ルミネッセンス年代測定研究会 (別府).
- 辻本 彰*・野村律夫*・福田賢一*・河野重範 (2012.1) 瀬戸内海児島湾における現生底生有孔虫 (メイオベントス) の分布と近年の環境変化. 汽水域研究会2012年大会・島根大学汽水域研究センター第19回新春恒例汽水域研究発表会合同研究発表会 (松江).
- 野村律夫*・河野重範・辻本 彰* (2012.1) 宍道湖の湖水の酸性化問題. 汽水域研究会2012年大会・島根大学汽水域研究センター第19回新春恒例汽水域研究発表会合同研究発表会 (松江).

鵜飼宏明*・河野重範・辻本 彰* (2012.1) 更新統小串層 (熊本県天草市) から産出する
 貝類化石と微化石. 日本古生物学会第161回例会 (富岡).
 星野由美子 (2011.8) フィールドミュージアム「三瓶自然館」における学習プログラムの
 開発と利用. 日本理科教育学会第61回全国大会 (松江)
 井上雅仁 (2011.4) 生物多様性保全のシンクタンクとしての博物館. 生物多様性シンポジウ
 ム「生物多様性地域戦略に求められるものー生態学の立場から」(徳島)
 井上雅仁 (2011.6) 草原がつなぐオキナグサと地域の自然. 福井県自然保護センターオキナ
 グサ学習会 (福井).
 井上雅仁 (2011.8) 生き物観察から地域の生物多様性保全へー島根県三瓶山地区の小学校
 の取り組みからー. 日本理科教育学会第61回全国大会 (松江)
 井上雅仁・大畑純二・三島秀夫・林 健亮* (2011.11) 石見銀山遺跡における生物環境モ
 ニタリングについて. 第14回自然系調査研究機関連絡会議調査研究・活動事例発表会 (福
 岡).
 井上雅仁・高橋佳孝* (2012.3) 樹林化した草原跡地における管理再開と草原生植物の再生.
 日本生態学会全国大会 (北海道)
 平舘俊太郎*・白川勝信*・高橋佳孝*・堤 道生*・太田陽子*・井上雅仁・佐久間智子*・森
 田沙綾香*・小柳知代*・楠本良延* (2011.8) 広島県北広島町千町原の半自然草地におけ
 る植物の分布と土壌特性の関係. 日本土壌肥料学会2011年度つくば大会 (茨城)
 森口淳樹*・木戸佑子*・山根 渉*・萬代 功*・前田修宏*・有川智己*・井上雅仁・林 蘇
 娟*・秋廣高志* (2012.3) 植物標本画像の高速デジタル化法の開発と維持管理が簡便な
 デジタル植物標本館の構築. 日本植物分類学会第11回大阪大会 (大阪)

IV. 環境保全活動支援事業

(地球環境の保全に関する活動支援事業)

1. 事業概要

当財団が県から「島根県地球温暖化防止活動推進センター」の指定を受け、また、環境事業部門に取り組んで4年が経過した。この間も地球温暖化に伴う環境異変が各地、各分野で生じ、この対策は喫緊の課題となっている。そこで、県民ひとり一人の益々環境に配慮した持続的活動が求められている。

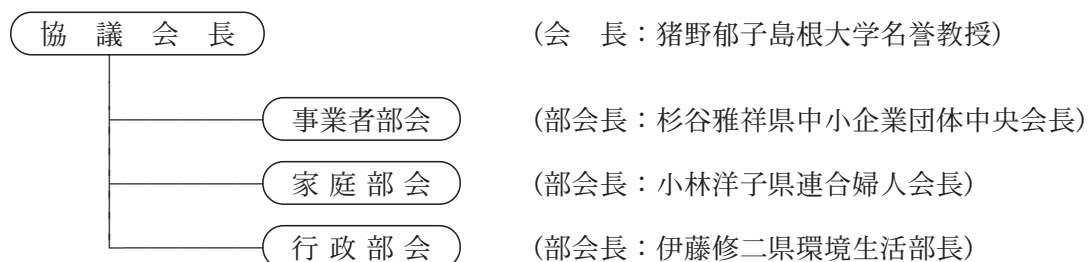
県や国等と協調して、県内全域において環境保全に取り組む法人や団体等への支援、身近なところから温暖化防止を誘発する「環境家計簿」「節電」「エコドライブ」「レジ袋削減」等の県民運動、エコライフの意識啓発と実践を促す多種多様な事業等を積極的に展開してきた。

2. 地球温暖化対策

1 島根県地球温暖化対策協議会の運営

平成17年度に県が設置した地球温暖化対策協議会の事務局として、推進会議の開催、温暖化防止活動大賞の表彰、HPによる広報等の業務を行った。本年度から県温暖化対策実行計画がスタートし、各部会代表や学生等からなる温室効果ガス削減対策の見える化の検討を行ったほか、各部会との連携を図った。なお、推進大会は県と協議して休止した。

- ・推進会議の開催：9月9日（ホテル穴道湖）、参集者約60名
- ・温暖化防止活動大賞の表彰：平井 徹氏（生活部門）、アースサポート株（事業者部門）
ほか4件
- ・見える化検討会の開催：4回（8、9、11、12月）



2 エコライフチャレンジしまね（環境家計簿記帳）の実施

(1) 環境家計簿記帳運動の実施

環境家計簿記帳（家庭で使う電気、ガス、燃料等の使用量をチェック）の啓発・普及を図った。各家庭でのエネルギー使用報告（3ヶ月毎）に基づき、診断書、診断コメントや類似家庭との比較、併せて省エネ関連情報を添えて返送し、家庭での身近な温暖化防止（エコライフ）の取り組みを推進した。特に本年度は東日本大震災の影響を受けて家庭での節電の推進、WEB版（インターネットで自己簡易診断が可能）の啓発等により参加者の拡大を図った。

しかし、結果としては、本事業を開始して7年を経過し、参加者の高齢化等もあってか、記帳中止者が増えて、その伸びは今一步であった。

- ・環境家計簿記帳者：23年度登録7,539世帯（うちWEB版537世帯、エコ診断124世帯）

(2) エコライフチャレンジしまねのシステム更新

現在の環境家計簿記帳事業は郵送版とWEB版を並立した形で取り組んできたが、弊障害も生じていた。そこで、インターネットの普及により、今後は一層「誰でも、いつでも、気軽にエコチャレに参加できる」ようWEB版を改良・充実することにした。

このため、新システムの24年4月運用開始を目標に、専門家による導入検討委員会、業者へのシステム開発発注、操作研修会、試行実施等一連のシステム構築作業を行った。

【主な内容】

- ①新システム導入検討会の開催：3回（6，7，8月）、検討委員4名
- ②企画提案審査会：10／7，応募3社、審査委員5名
- ③新システム導入委託：㈱エッグ（10／14～3／15）

3 県地球温暖化対策協議会生活部会の運営（家庭向け地球温暖化対策事業）

協議会3部会の1つの生活部会事務局を担い、運営委員会の開催や部会活動として「エコライフチャレンジしまね（環境家計簿記帳）」の先導的取り組み、「しまね地球温暖化防止県民運動」等への主体的取り組みを誘導・推進してきた。

また、県や国が行う温暖化対策事業に協調し、積極的な参画を誘導したほか、部会取り組みの反省評価を行い、次年度対策の検討も行った。

- ・23年度生活部会活動参画者：14,844名
- ・運営委員会の開催 第1回；4月25日、年間活動計画検討
第2回；9月30日、前期の活動評価と後期活動協議
第3回；2月27日、年間活動評価と次年度計画検討

(1) しまね地球温暖化防止県民運動の実施

ア、広報活動

県民に対してこの運動意識を高め、実践を促すため、年間を通して当財団HP、市町村広報やTV、ラジオ、新聞等によるPR、チラシの配布、また、パネルや図書・器材の貸出等を行った。特に本年度は東日本大震災の影響を受けて「節電」をキーワードに運動展開したほか、地域イベントや催事の時には地球温暖化防止活動推進員、各市町村温暖化対策協議会員、協賛企業等と連携して取り組みを進めた。

イ、「まげに節電2011」キャンペーン

本年度は、東日本大震災の影響を受けて「節電」に焦点を当て、夏期に（7月～9月）、「まげに節電2011」キャンペーンを最重点にして取り組んだ。

手法として①身近な節電の取り組みの報告と②家庭における節電結果（検針票）の報告、をしてもらうことにより、家庭における無駄なエネルギー使用のチェックを行うとともに省エネ実践の一層の波及・浸透を図った。

この取り組みには6社の企業から協賛を得ることができて、時宜を得た効果的取り組みにすることができた。

【主な内容】

- ①広報：メディア（山陰中央新報紙、TSK、FM山陰、りびえーる、）、ポスター（700

枚)、チラシ (40,000枚)、街頭 (松江市、安来市、コープ、しまね等のエコフェスタ)、キャンペーン用ホームページ、キャンペーン用ツイッター

②応募者：978名 (①864名②114名)

③結果：当初、全体で15%程度のCO₂削減率を見込んでいたが、応募の結果から21% (CO₂削減量13 t) の削減率となり、応募者が様々な工夫をしながらの節電へ取り組みだ成果といえる。また、県民の節電への理解向上と実効的な取り組みを広げることができた。

ウ、エコドライブ推進キャンペーン

10～11月の2ヶ月間、運転者にエコドライブ体験教習会や街頭啓発等を行うことで、エコドライブ普及による燃費の節減とともに自家用車のCO₂削減を図るキャンペーンを行った。

昨年度に引き続いて松江・出雲・浜田3市で地域協議会の協力を得て体験教習会を行ったほか、本年度初の試みとしてエコドライブキャラバン隊を編成し、松江・出雲・浜田・益田の4市において国道9号線に面した交差点でプラカードやのぼりを掲げて、ドライバーや通行人にアイドリングストップ、急発進防止などを訴えた。

このキャンペーンも3年目となり、日時設定や天候にも影響されるが教習会参加者の増加、街頭啓発時のアイドリングストップ車の割合増加 (7～9%→10～20%) が見られた。

【主な内容】

- ①体験教習会 松江：10月25日、城北自動車教習所、受講者12名
出雲：10月27日、出雲高等自動車教習所、受講者9名
石見：11月2日、はまだ自動車教習所、受講者9名

②街頭啓発キャラバン

- ・実施 11月9～10日 (1泊2日)
- ・対応者 キャラバン隊員8名 (マイクロバス乗車) + 現地スタッフ8～13名
- ・街頭啓発場所 松江駅前、出雲市役所前、浜田市殿町、益田市中吉田の各交差点

エ、レジ袋削減キャンペーン

県民の3R推進事業の項参照。

4 地域連携による省エネ・3R活動 (市町村地球温暖化対策協議会) 支援事業

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき設立された市町村協議会が行う地域段階での環境学習、普及啓発活動等に21、22年度に引き続いて助成 (事業費の2/3以内助成で、100万円限度) し、低炭素・循環型社会構築への機運醸成を促した。なお、本年度も春・秋の2回の募集を行い、10団体に助成を行った。

【主な内容】

- ①募集及び交付決定：5月、9月、申請10団体、交付決定10団体6,080千円
- ②助成協議会：松江市、安来市、出雲市、大田市、江津市、浜田市、益田市、津和野町、西ノ島町、奥出雲町

5 県民の3R推進 (ノー・レジ袋運動推進) 事業

県民の3R (リユース、リデュース、リサイクル) 推進の一環として、21、22年度に引き続

いて、買い物時にマイバッグ持参によるレジ袋を断る全県運動を県、市町村、関係団体、エコショップ等と連携して実施した。特に11～12月をキャンペーン推進月間とし、「しまねsuper大使吉田くん」をキャラクターにすることで若年層に焦点を当て、県下全域で広報を行ったほかレジ袋有料化未実施市町村を中心に街頭啓発を実施した。

この継続的取り組みにより各市町村でも出雲市、松江市、大田市に引き続き、本年度から安来、浜田、益田、江津の各市がレジ袋の有料化に踏みきり、事業成果は高まってきている。

【主な内容】

- ①広報の実施：ポスター掲示、チラシの配布、山陰中央新報紙、「りびえ〜る」紙に広告掲載、FM山陰、山陰放送ラジオでCM放送を実施
- ②街頭啓発：・期間12月7日～1月27日
 - ・場所は益田市、江津市、雲南市内のしまねエコショップ12店舗
 - ・ノーレジ袋宣言者は858名

6 しまね子供環境学習（もったいない生活日記コンクール）の実施

教育委員会と連携を図り、県内全小学校児童を対象に、冬休み中に家庭における省エネ実践活動（3日間）をチェックする「もったいない生活日記コンクール」を実施したところ、150校、5,396名に家族共々の地球温暖化防止への関心を高めてもらった。また、取り組み結果をレポートにまとめて関係先に配布し、本事業の持続的取り組みを広報した。

特に本年度は地球温暖化防止活動推進員と連携を強めた取り組みを行ったこともあって、コンクール応募者は22年度比で、学校数で105校、児童数で3,240名と大幅な伸びが得られた。

なお、年度末にこの取り組みについて推進員による意見交換会を行ったところ、「学校側に年々取り組みの輪が確実に広がってきている。」「教諭から事業継続の要望が強かった。」「子供に対する環境教育の機会をもっと作るべき」等々の意見要望があった。

【主な内容】

- ①募集：教育委員会に依頼、冬休み前（12/上まで）推進員による出前講座、学校訪問等
- ②応募用紙（日記）の印刷・配布：県内全児童向け、40,000部
- ③結果の公表：レポートの印刷配布6,000部、参加児童及び学校に記念品送付

7 島根オリジナル環境学習の展開

これまでに作成した環境学習プログラムをもとに、学校の授業にも活用できるよう、改良を行った。改良にあたっては、近隣の小学校教員とともに検討会を年3回行い、新しい学習指導要領に照らし合わせながら検討をした。また、これまで作成したプログラムを、近隣の小学校で実施した。

8 地球温暖化防止活動推進員連携強化事業の実施

国庫補助金の廃止により、本年度は県単独事業として、120名の地球温暖化防止活動推進員（22年12月に県委嘱）に対して、各地域でのエコ活動、学校との連携、環境学習ツール等一層の効果的啓発活動を促すため資質の高位平準化を中心に体系化しての研修を行った。また、推進員同士の自主的交流・情報交換を促すため推進員名簿を更新した。

なお、本年度の研修を終えて、①活動内容に推進員間で意識の差が拡大している。②委嘱方法の再検討が必要。③2年間の委嘱であり、毎年の基礎及び資質向上等研修が必要。等の課題

が浮き彫りとなった。

(1) 資質向上研修会

環境の基礎的知識から効果的活動の手法を実技を交えて体系的に研修し、参加型学習への理解を深めた。

- ・出雲部：7月29日(金)、くにびきメッセ（松江市）、37名、講師（人間科学研究所 志賀誠治氏）
- ・石見部：7月22日(金)、いわみーる（浜田市）、20名、講師（同 上）
- ・総 括：2月10日(金)、いきいきプラザ島根（松江市）、54名、講師（同上、岡山市環境保全課 原 明子氏）

(2) 企画研修

隣県の優秀活動者の活動方法や先進事例を研修することで、推進員自身の参加型環境学習の意欲啓発を促した。

- ・出雲部：9月20日(火)、いきいきプラザ島根（松江市）、20名、講師（環境カウンセラー 曾我邦雄氏）
- ・石見部：9月21日(水)、あすてらす（大田市）、12名、講師（同 上）
- ・広島研修会：12月10日(土)、広島J Aビル、23名、エコレシピオーデーション調査

(3) 実践研修

推進員に対して参加・体験型プログラムの演習を行い、この実践を通しての地域活動を促した。

- ・出雲部：11月3日(祝・木)、いきいきプラザ島根（松江市）、19名、講師（ゆいツール 開発工房 山本かおり、小山厚子両氏）
- ・石見部：11月4日(金)、いわみーる（浜田市）、7名、講師（同 上）

9 環境団体交流（しまねエコフェスタ）事業の実施

県内の地球温暖化防止及び環境保全を行う団体がその活動出展や活動発表を行うことで、団体同士の連携、相互の情報交換を行うとともに、来場者に身近な環境問題について普及啓発を図り、これらの活動を一層拡大する目的で「しまねエコフェスタ2011」を開催した。

本年度は県単独予算で前年より縮小実施の企画をしたが、三瓶青少年交流の家や三瓶自然館が行う「さんべ祭」との同日開催、広報や人役連携等を行うことにより前年また予算以上の取り組みができ、多くの来場者に意識啓発や情報提供を行うことができた。

【主な内容】

- ①期 日：10月22日(土)～23日(日)
- ②会 場：県立三瓶自然館サヒメル
- ③内 容：
 - ・各環境団体の活動発表、展示
 - ステージ及びテントにおいて6 団体が発表、22団体が活動展示・出展
 - ・省エネルギー関連イベント
 - 様々な発電、省エネ機器の実演、セグウェイ体験試乗会、クラフト、環境をテーマとしたご当地ヒーローショー、エコアクションラリー、家庭のエコ診断
 - ・環境講演会

FROGMAN氏によるトークショー

④来場者：約6,000名（2日間）

10 うちエコ診断事業

全国地球温暖化防止活動推進センター（一般社団法人地球温暖化防止全国ネット）からの委託事業として、うちエコ診断ソフトを用いて家庭の生活スタイルやエネルギー使用動向を把握し、各家庭に応じた具体的なCO₂排出量削減対策を提示することにより、具体的な削減行動を提案した。

本年度は全国センターが国から受託し地域別試行実施となったことから、各県センターでは夏から受託体制を整えた。研修受講修了者の中から全国センターの認定・委嘱を受けた診断員が県内家庭の割り当て目標100世帯を対象に10月～1月の4ヶ月間に診断を実施し、結果として目標以上の診断ができ、また、この手法による誘導能力を高めることができた。

【主な内容】

- ①うちエコ診断員の募集（7/19～8/20）；県内から6名応募し全員認定・委嘱
- ②うちエコ診断員研修会：中国ブロック（岡山市、5名）、西日本ブロック（大阪市、1名）
- ③県内うちエコ診断の実施：10月～1月の間124戸に対してPCによる診断
- ④診断方法：受診者募集→事前調査→PC診断→満足度調査→評価

11 全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）との連携

全国センター（一般社団法人地球温暖化防止全国ネット、22年8月設立）との連携に努め、中四国ブロックや他県センターと共通事業への取り組み、情報交換を図った。

【主な内容】

- ①全国センター会議：3回（7月、2月、3月）、東京、各1人出席
- ②中四国ブロック会議：回（6月、1月）、岡山市、各1人出席

3. 環境保全活動支援

1 交流連携（ネットワーク形成）事業

県西部を中心に積極・自主的に環境問題に取り組むモデル団体を育成し、その活動ネットワークや運動の拡がりを目指すため「NPO法人コアラッチ（益田市）」に業務委託、事業展開した。

当法人は財団が行う事業の補助・協力、地元イベントへの参画、物品の貸出、環境保全・温暖化防止関連の相談窓口として活動展開、機能発揮した。

【主な内容】

- ①財団が行う事業（キャンペーン、街頭啓発、各種相談・助言研修・交流、広報）への補助、協力 18回
- ②パネル等の展示及び貸出 12回・日
- ③環境保全地域事業の企画・実施 12回・日
- ④環境に関する各種相談・助言 19回

2 情報収集・提供事業

県民ニーズに応じた環境関連ライブラリーや器材整備とともに、年間を通して県民一般に対してメディアやホームページ、環境イベント、広報紙「さんべ発」などを利用して情報提供を行った。

【主な内容】

- ①貸出図書の購入 8冊
- ②パネル・機器の貸出 60回
- ③「さんべ発」の発行 6回（3,000部／回）

3 人材育成（環境アドバイザー派遣）事業

地域住民や民間団体等が行う環境保全・温暖化防止に関する意識啓発、学習を助長するために、その指導者として専門分野別に「しまね環境アドバイザー」15名（任期2年）を委嘱、配置し、県内各地からの要請に応じて環境講座や地域ボランティアの育成及び実技指導を行った。

【主な内容】

- ①アドバイザーの派遣手続き（周年） 直接派遣 17回、 紹介派遣 5回
- ②アドバイザーの委嘱手続き（3月） 新規2名＋更新12名＝計14名

4 ふれあい環境助成金制度

県内のボランティア団体や法人が環境保全・地球温暖化防止に貢献する取り組みを開始又は継続して行うための支援策として、活動（事業）に要する資金の一部を助成した。

【主な内容】

- ①助成内容 ボランティア団体： 事業費の2/3以内助成で、40万円限度
NPO法人・企業等：事業費の1/2以内助成で、80万円限度
- ②実施状況 募集：23年4月1日から4月30日（パンフの配布10,000部、広報）
審査会：5月31日、いきいきプラザ島根、審査員8名出席
ヒアリングの実施：松江（5／17・23）、浜田（5／12）
現地調査：12月2日、県央地域内、3名参加

③助成状況

（単位：件、千円）

	申請件数	申請事業費	申請助成額	交付決定件数	助成決定額
ボランティア団体	38	13,727	8,550	34	6,580
NPO法人等	5	3,457	1,720	3	1,280
計	43	17,184	10,270	37	7,860

V. 北の原キャンプ場管理運営事業

(北の原キャンプ場の管理運営事業)

北の原キャンプ場は、平成22年度より大田市の施設となったが、当財団が引き続き指定管理者として管理運営にあっている。これまでのノウハウを活かして安定した管理運営にあたるとともに、三瓶自然館等の指定管理者としての利点を活かして、一体的な事業展開、PRによりさらなる集客を目指した。

基本理念である「豊かな自然環境を活かし、自然に親しむ場を提供する」を実現するために、国立公園三瓶山という豊かな自然環境と、その自然に囲まれた施設の魅力を最大限に引き出し、来場者が自然の中での生活～アウトドアライフ～を楽しめるような管理運営に心がけた。

来場者の安全・安心への配慮はもちろんのこと、キャンプ初心者向けのイベント、食材の提供、ドッグランなど、これまでのノウハウを活かした自主企画も行い、新たな魅力を提供した。また、中国地方屈指の規模を活かして、利用の拡大を図るとともに、三瓶山観光の拠点施設として、三瓶自然館とともに大田市観光を牽引する役割を果たした。

1. 利用促進業務

各種のイベントに合わせた出店、チラシ配布の他、冬期にはスポーツ量販店等への訪問PRを実施した。また、自社HPの他にも日本オートキャンプ協会等の提携サイトへの情報掲載を進めた。

主な業務の実施内容は次のとおり。

- ・ 自社HP及び提携キャンプ関連HPに、ドッグランやイベントの紹介を掲載。
- ・ 島根県の観光情報サイト「島根情報ナビ」のアウトドアコーナーへの情報掲載。
- ・ 出雲市の大型スポーツ用品店2店舗のキャンプコーナーに、パンフレットの配布継続。
- ・ 三瓶自然館で開催された「さんべ祭」に出店。2日間で6千人にキャンプ場をPR。
- ・ 大田市が開催した「くにびきウォーク」に会場を提供し、約8百名にキャンプ場をPR。
- ・ 広島で開催された『島根ふるさとフェア2012』において、新設の「アウトドア天国しまね」ブースに参加、ダッチオーブンのデモンストレーションや当キャンプ場のPR実施。
- ・ 出雲市・大田市・江津市・浜田市の動物病院やペットショップ、スポーツ量販店約40ヶ所へキャンプ場パンフレットやドッグランのチラシの配布継続。
- ・ 自社HP内にブログ形式のドッグラン専用サイトを新設。



島根ふるさとフェア2012

2. 管理体制

利用者が快適なアウトドアライフを過ごせるよう、スタッフの人員配置を行っている。

通常期は、チーフを含むスタッフ5.5名の体制により、電話及び利用者対応、施設・設備の安全点検、施設周辺の環境美化、ゴミの減量化等に万全を期している。また、場内の除草作業には専門のスタッフ6名を配置し、雑草により景観を損ねないように配慮している。

利用者が増加する繁忙期は、さらに4～8名程度増員し、宿泊施設の清掃、場内トイレ・シャ

ワー棟の清掃、大量に排出されるゴミの処理等に当らせ、衛生管理を徹底している。

一方、利用者が激減する冬期間は、正規職員スタッフ3名ですべてを対応し、人件費の節減に努めている。

3. 施設維持管理

キャンプ場開設以来42年が経過しており、施設・設備の老朽化、経年劣化に伴う故障や不具合が多発しており、今後も継続して発生することが予想される。このため、施設・設備の維持管理台帳を常に更新し、必要に応じて大田市と協議し、修繕計画の見直しを申し入れた。

本年度においても多数の故障及び不具合が発生したが、利用者の快適で安全な利用を第一に、必要最低限の修繕を実施した。

主な修繕箇所と修繕内容は次のとおり。

- ・セントラルロッジ外部（スロープ手すり）…除雪時破損部の交換
- ・ケビン外側木部（ベランダ手すり、階段等）…腐食木部の交換
- ・ケビン内部施設・設備（トイレ、エアコン、給湯器等）…故障ヶ所の部品交換
- ・炊事等の給水開閉バルブ、シャワー設備コイン投入機、シャワー設備給湯器…部品交換

4. 利用状況及び収支状況

3月に発生した東日本大震災の影響による、全国的な出控えや、昨年の島根県から大田市への移譲により、例外的に予約時期を遅らせた影響が残った。このため、1年を通して予約件数が伸び悩んだ。また、利用施設がより安価なものに集中し、利用人数は増加しているが、利用金額が前年を下回る実績となった。

こうした状況の中、人的関与の見直し、その他の経費削減により、収支状況の改善を図り、増益を出すことができた。

詳細については「Ⅷ. 各種資料」に掲載。

5. 自主事業

(1) ドッグラン

本格的なドッグランの開設を目指して、場内遊水地の仮設ドッグランの試行を継続した。木陰と広さを有し、また、隣接する三瓶バーガーのドッグカフェとの相乗効果もあり、利用者からの評価は概ね良好であった。なお、平成24年度からは新しいドッグラン施設が整備されることになり、11月から工事が行われている。

年間利用件数 340頭（前年対比117%）

(2) イベントの実施

□ビギナーズキャンプセミナー

例年実施しているキャンプ初心者向けのキャンプ講習会。本年度は参加者を初めての人に限定し、キャンプの基礎を時間をかけて丁寧に指導した。参加者によるアンケートでも大変満足できたとの声が多く、新たな北の原キャンプ場



ビギナーズキャンプセミナー

ファン作りができた。

期 日：6月4日(土)～5日(日)、6月25日(土)～26日(日)

参加者：5家族17名

□夏休みさんべ冒険キャンプ

広島子どもたちを対象に、三瓶の自然を満喫してもらう三瓶自然館の主催イベント。会場を提供し、スタッフとしても協力した。

期 日：8月7日(日)～9日(火) 参加者：8名

□ダッチオープンキャンプセミナー

中級者向けのキャンプセミナーとして実施した。ダッチオープンの手入れや調理法を詳しく指導した。参加後のアンケートは概ね好評で、思っていたより簡単なおいしい料理が作れ、丁寧に手入れの仕方などを教われて良かったとの意見が多かった。

期 日：9月10(土)～11日(日)

参加者：6家族24名



ダッチオープンキャンプセミナー

(3) 物販、貸出など

キャンプ場宿泊者の利便性向上のため、簡易食品や、飲料水、日用品雑貨、燃料等の販売を行った。また、夏のデーキャンプ利用促進のためのバーベキューの食材や、冬のケビン宿泊利用促進のための鍋の食材販売も行った。本年度は新規利用開拓を図るため「ナベレンジャー」を考案し、「赤のキムチ鍋」や「白色の豆乳鍋」等5色鍋が好評を博した。

その他、テントや毛布、炊事用具などの貸し出しも行った。

6. その他の事業

(1) 地域と連携した観光振興に関する事業

さんべ荘、さひめ野、志学温泉協会と連携し、県内外から訪れたキャンプ場宿泊者に温泉割引券を配布した。多くの利用者が三瓶温泉を利用した。

大田市産の「銀山赤とり」に加え、飯南町「飯南ぶた」を使った鍋の食材販売を、冬期のケビン利用者に行い、地元食材のPRを行った。

(2) 大田市全体及び三瓶山周辺観光のインフォメーション機能を担う事業

セントラルロッジ内に観光情報コーナーを設置し、大田市観光MAPを掲示し、キャンプ場宿泊者の観光案内を積極的に行った。登山者への登山ルートのご案内をはじめ、温泉津温泉や石見銀山、三瓶小豆原埋没林など主要観光地へのルート案内、食事どころや大田市の見どころ紹介などを行った。

Ⅵ. 利便提供事業

(施設利用者への利便提供事業)

1. 物販事業

三瓶自然館売店では、夏の企画展「鉱物」や「鷹の爪」のプラネタリウム番組上映にあわせ、鉱物関連商品、キャラクターグッズを充実するなど、企画に応じた商品構成を工夫しながら運営にあたった。また、ゴールデンウィーク、盆期間は、三瓶地域の土産となる商品を多めに揃え、時期による来館者層の違いにも対応した。三瓶小豆原埋没林公園では、埋没木を用いたアイテムを中心に展開した。北の原キャンプ場は、食材等、利用者の利便を目的とした商品を中心に展開した。春～秋期はバーベキューセット、冬期は鍋具材を販売し、自社HPで専用ページを設けるなどの広報効果により、前年を上回る売上げを得た。



夏休み時期の様子

2. 貸出事業

北の原キャンプ場において、用品等と歩くスキーの貸出及び、ドッグランの運営を行った。貸出品の点検、整備に留意し、快適に利用できるように心がけて運営した。歩くスキーは、冬期間を通じて積雪があったことと、自社HP、「さんべ発!」2月号での特集による広報の効果により、例年実績を大きく上回る利用があった。



貸出事業

Ⅶ. 地域との連携、その他の事業

(島根県立三瓶自然館及び附属施設の運営事業)

1. 地域との連携

□姫逃池カキツバタ保全作業

日 時：6月12日(日) 9:30～12:00 参加者：約40名

内 容：市民グループ、関係機関、一般参加の市民ボランティアと協力して、姫逃池のカキツバタの生長を助けるために、競合植物の草刈り作業を行った。協力団体は次のとおり。大田の自然を守る会、NPO法人緑と水の連絡会議、環境省松江自然保護官事務所、島根森林管理署大田森林事務所、島根県自然環境課、大田市環境衛生課、三瓶自然館インタープリター。

□三瓶山地区ウスイロヒョウモンモドキ生息環境維持事業（環境省より受託）

内 容：県内では三瓶山のごく一部にしか生息しない、ウスイロヒョウモンモドキの生息環境維持創出を目的に、県や関連団体と草原及び隣接する環境の草刈り作業を実施した。合わせて、本種幼虫の食草となるオミナエシの苗を作業地内に植栽し、本種が生息できる環境作りに努めた。

□三瓶雪景花火大会

内 容：三瓶温泉協会主催で、3月4日に東の原で実施された花火大会の企画、運営に参画した。おもに、関連イベント（さんべdeさけべ！！、フォトコンテスト）の企画、全般の広報、当日の進行を担った。本企画は、三瓶地区の活性化気運の盛り上がりを目指して、島根県および大田市の助成と、企業等からの協賛を受けて実施された。準備期間が2ヶ月弱と短かったが、当日は約5,000名の参加があり、大変な盛況であった。

2. 他地域との連携

□三瓶地域の魅力を創り育てる連絡会議

大田商工会議所の主催で、三瓶地区の施設関係者、行政などが参加して開催した。各回、テーマを決めた研修会形式で、観光活用や魅力の再発見などについて議論した。

- | | | | |
|-----|-----------|------|---------------------|
| 第1回 | 9月22日(木) | 話題提供 | 中桐充彦氏（大田市観光プロデューサー） |
| 第2回 | 11月30日(水) | 話題提供 | 有田隆司氏（ひろでん中国新聞旅行） |
| 第3回 | 12月21日(水) | 話題提供 | 和田裕子氏（アンテナカフェ・ハレの日） |
| 第4回 | 1月30日(月) | 話題提供 | 伊藤 宏氏（大田の自然を守る会） |
| 第5回 | 3月22日(木) | 話題提供 | 穴井信介氏（黒川温泉旅館組合） |

□三瓶山広域ツーリズム協議会

大田市、美郷町、飯南町の地域連携で、アウトドアレジャーを中心に、三瓶地域の観光振興を推進するために設置された協議会。大田市が事務局となり、地域の行政、観光関係施設等が参画している。本年度は、基礎資料として観光地図、パンフレット等の作成を、JTBに委託して実施した。

3. 他施設との連携

□島根県自然系博物施設交流事業（三館交流）

三瓶自然館サヒメルと宍道湖自然館ゴビウス、しまね海洋館アクアスの県立自然系博物施設が合同で、情報交換会や研修会を実施した。

○担当者研修会、情報交換会

日時：10月18日(火)、19日(水)

会場：しまね海洋館アクアス

□広島市こども文化科学館

広島市こども文化科学館の2階フロアに三瓶自然館のブースを設置している。

平成23年度は2回内容の更新を行い、企画展や天体観察会などの情報を発信した。

4. 行政への協力

各種委員会委員等の受諾

名 称	氏 名	期 間	依 頼 元
大田市環境審議会	安藤 彰浩	H23. 2. 1－H25. 1. 31	大田市長
国立三瓶青少年交流の家施設業務運営委員会委員	安藤 彰浩		国立三瓶青少年交流の家所長
大田商工会議所参与	安藤 彰浩	H22. 11. —	大田商工会議所
三瓶山広域ツーリズム振興協議会監事	安藤 彰浩	H23. 7. —	大田市
大田市山村留学推進協議会委員	龍 善暢	H20. 4. —H24. 3	大田市教育委員会教育長
神々の国しまね実行委員会幹事会幹事	龍 善暢	H22. 4. —	島根県知事
日本プラネタリウム協議会理事	龍 善暢	H22. 6. —H24. 6	日本プラネタリウム協議会
石見銀山遺跡客員研究員	中村 唯史	H23. 4. 1－H25. 3. 31	島根県教育委員会教育長
出雲市文化財保護審議員	中村 唯史	H23. 6. 1－H25. 5. 31	出雲市長
島根大学汽水域研究センター協力研究員	河野 重範	H20. 5. —	島根大学
日本理科教育学会第61回全国大会実行委員	河野 重範	H23. 6. —H23. 8	日本理科教育学会第61回全国大会実行委員会
島根天文協会会長	竹内 幹蔵	H17. 6. —	島根天文協会
公開天文台ネットワーク（PAONET）運営委員	竹内 幹蔵	H19. 5. —	公開天文台ネットワーク
日本天文学会教材委員	竹内 幹蔵	H21. 1. 1－H24. 12. 31	社団法人日本天文学会
しまねレッドデータブック改訂委員会委員	大畑 純二	H22. 11. 1－H25. 10. 31	島根県知事
希少野生動植物種保存推進員	大畑 純二		環境大臣
大田市文化財保護審議員	大畑 純二		大田市長
希少野生動植物種保存推進員	井上 雅仁	H21. 7. 1－H24. 6. 30	環境大臣
島根県自然環境保全審議会委員	井上 雅仁	H21. 11. 12－H23. 11. 11	島根県知事
石見銀山遺跡調査活用委員会委員	井上 雅仁	H20. 1. 7－H26. 3. 31	島根県教育委員会教育長
石見銀山遺跡整備検討委員会委員	井上 雅仁	H20. 10. 20－H24. 9. 30	大田市教育委員会教育長
石見銀山遺跡客員研究員	井上 雅仁	H23. 4. 1－H25. 3. 31	島根県教育委員会教育長
しまねレッドデータブック改訂委員会委員	井上 雅仁	H22. 11. 1－H25. 10. 31	島根県知事
島根県環境影響評価技術審査会委員	井上 雅仁	H24. 1. 1－H26. 12. 31	島根県知事
島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員	星野由美子	H14. 4. 1－H24. 3. 31	島根県農林水産部農村整備課長
自然観察指導員講習会全国講師	星野由美子	H16. 4. 1－	日本自然保護協会
島根県環境影響評価技術審査会委員	星野由美子	H17. 1. 1－H26. 12. 31	島根県知事
しまねレッドデータブック改訂委員会委員	星野由美子	H22. 11. 1－H25. 10. 31	島根県知事
邑智西部区域中山間保全整備事業環境情報協議会委員	皆木 宏明	H18. —	森林総合研究所
しまねレッドデータブック改訂委員会委員	皆木 宏明	H22. 11. 1－H25. 10. 31	島根県知事
平成23年度地域の科学舎推進事業「地域ネットワーク支援」神話の国シマネの縁結びENMSB）ネットワーク運営委員	矢田 猛士	H23. —	松江工業高等専門学校長
希少野生動植物保護巡視団体	(公財)しまね自然と環境財団	H24. 3. 15－H26. 3. 31	島根県知事

5. 東日本大震災への対応

1 東日本大震災への対応

(1) 標本レスキュー

東日本大震災では、博物館に収蔵されている学術標本も、津波などにより被害を受け、修復などの協力要請が全国の博物館に寄せられた。当館もその要請に応え、津波により塩水を被った陸前高田市博物館の植物標本100点を対象に、修復作業にあたった。



標本レスキュー

(2) みんなで楽しむ天文教室「望遠鏡を作って天体を見よう！」

日 時：1月31日(火) 17:10～20:40

2月1日(水) 17:15～20:20

場 所：岩手県上閉伊郡大槌町三枚堂サポートセンター（1/31）

岩手県上閉伊郡大槌町大槌内仮設団地談話室（2/1）

参加者：29人（1/31：11人、2/1：18人）

東日本大震災の被災地で科学コミュニケーションを行うことは博物館の使命として意義があると考え、科学技術振興機構（JST）により採択された先進的科学館連携推進事業「自然と人の共生 ～科学技術からのアプローチ力を育てる～」における地域連携の一環として、NPO法人遠野まごころネットと協力してイベントを実施した。内容は望遠鏡工作とそれを使った天体観察会で、2箇所の仮設住宅地で行った。



望遠鏡を作って天体を見よう！

参加者は小学1年生から大人まで幅広い年齢層で、室内での望遠鏡工作キットの組み立てでは、一人一つずつ手順を追って組み立てられた。

軽食のあと、外に出て天体観察を行った。海岸地域としては珍しい大雪だったが、観察の時間帯には二晩とも晴れ間があり、手作りの望遠鏡で月を見てもらうことができた。

近くには公開天文台もプラネタリウムもないとのことで、子どもたちに喜んでもらえ、「また別のイベントをしに来てほしい」などと言われた。

遠野まごころネットによれば「今、被災地に物資は足りているが、教育など心のケアは不足している」とのことであり、今後は直接行けなくても、他の博物館などと連携しての支援が可能と思われる。

(3) 募金活動

未曾有の東日本大震災の発生を受け、5日後の平成23年3月16日に受付に募金箱を設置した。平成24年3月16日に募金箱を撤収するまでの間、来館者の方々や職員から集まった義援金は、170,670円となり、島根県を通じて被災地に届けられた。

VIII. 各種資料

1. 数値目標を掲げた運営

1 収入目標額の設定

指定管理者制度の導入にあわせて、全施設に利用料金制度が導入されている。利用料金収入は、様々な経営努力を実施した結果、過去4年間は指定管理申請時の収入予測を上回って推移している。本年度の利用料金収入目標は5,175万円で、指定管理会計予算の14.4%にあたる。

この目標額を達成するために各施設ごとの月別目標値を設定している。今年度は各施設の状況に応じて、収入額と利用者数の内、職員が目標としやすい方を選んで設定した。

各施設ではこの値を表とグラフにして貼り、達成度の確認を行った。

2 全施設の目標値と達成状況

平成23年度 施設別目標達成率一覧表

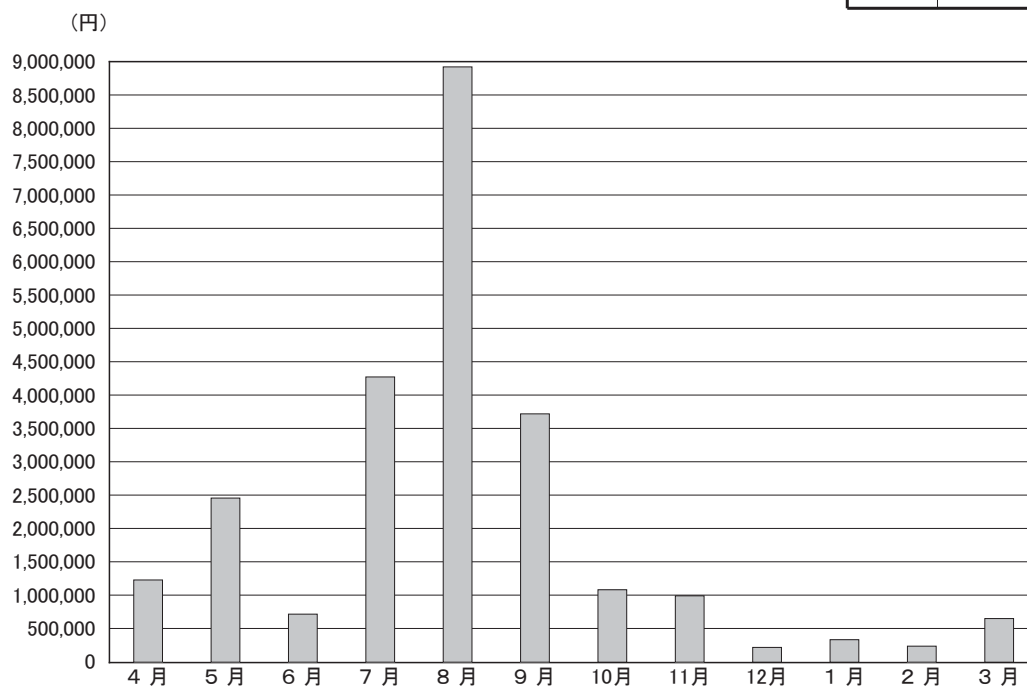
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サヒメル (天体含む) 入館者数(人)	H23目標	8,000	20,000	7,000	22,000	39,000	20,000	16,000	8,000	1,000	2,000	2,000	3,000	148,000
	H23実績	7,379	14,356	6,347	20,220	35,142	16,070	14,768	8,046	1,647	2,560	2,503	3,953	132,991
	達成率(%)	92	72	91	92	90	80	92	101	165	128	125	128	90
天体観望会 観覧者数(人)	H23目標	1,000	1,300	900	1,500	1,500	700	500	200	50	50	150	150	8,000
	H23実績	632	722	844	1,370	1,746	851	1,042	295	97	147	261	117	8,124
	達成率(%)	63	56	94	91	116	122	208	148	194	294	174	78	102
埋没林公園 利用料金(円)	H23目標	400,000	1,000,000	500,000	700,000	1,200,000	800,000	800,000	800,000	100,000	50,000	100,000	250,000	6,700,000
	H23実績	434,210	891,620	511,670	632,190	1,004,210	592,770	777,950	734,820	89,630	61,000	50,320	200,500	5,980,890
	達成率(%)	109	89	102	90	84	74	97	92	90	122	50	80	89
キャンプ場 利用料金(円)	H23目標	300,000	2,500,000	400,000	2,400,000	7,000,000	1,800,000	1,200,000	600,000	200,000	100,000	200,000	300,000	17,000,000
	H23実績	753,940	2,042,150	584,850	2,195,200	5,639,400	1,640,450	1,046,300	509,330	187,400	213,200	259,500	188,850	15,260,570
	達成率(%)	251	82	146	91	81	91	87	85	94	213	130	63	90
物販・貸出 売り上げ(円)	H23目標	1,250,000	3,400,000	1,400,000	4,500,000	9,600,000	4,000,000	2,200,000	1,650,000	350,000	650,000	350,000	1,150,000	30,500,000
	H23実績	1,217,015	2,772,493	1,297,689	3,900,077	8,627,859	3,632,991	2,245,666	1,596,799	460,934	597,954	592,060	772,658	27,714,195
	達成率(%)	97	82	93	87	90	91	102	97	132	92	169	67	91

3 収入実績

□三瓶自然館収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入額 (円)	1,221,690	2,449,840	709,200	4,266,130	8,915,580	3,712,700	1,074,820	983,730	211,420	325,910	229,070	642,960

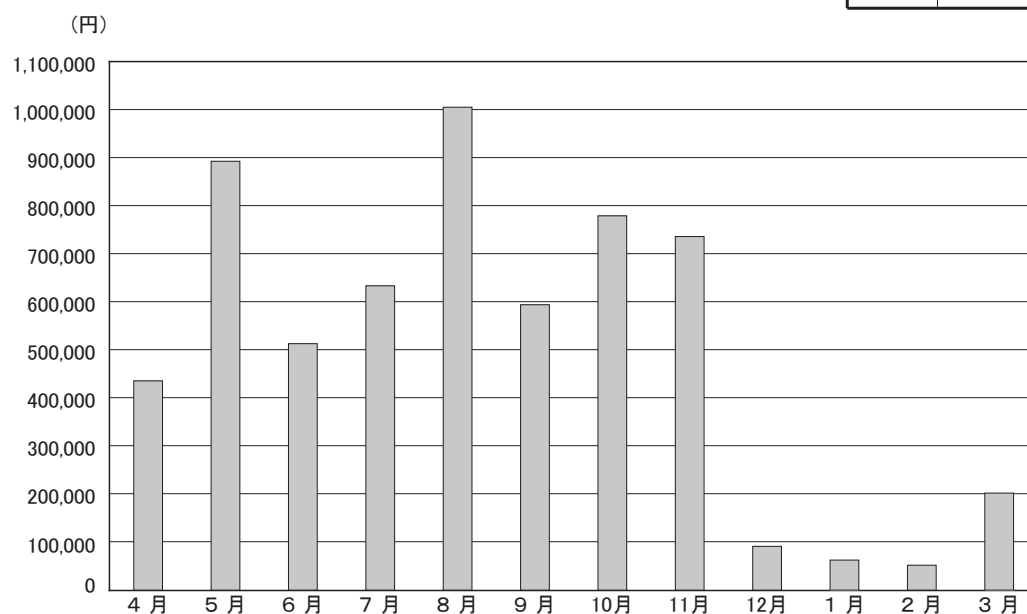
合 計	24,743,050
-----	------------



□埋没林公園収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入額 (円)	434,210	891,620	511,670	632,190	1,004,210	592,770	777,950	734,820	89,630	61,000	50,320	200,500

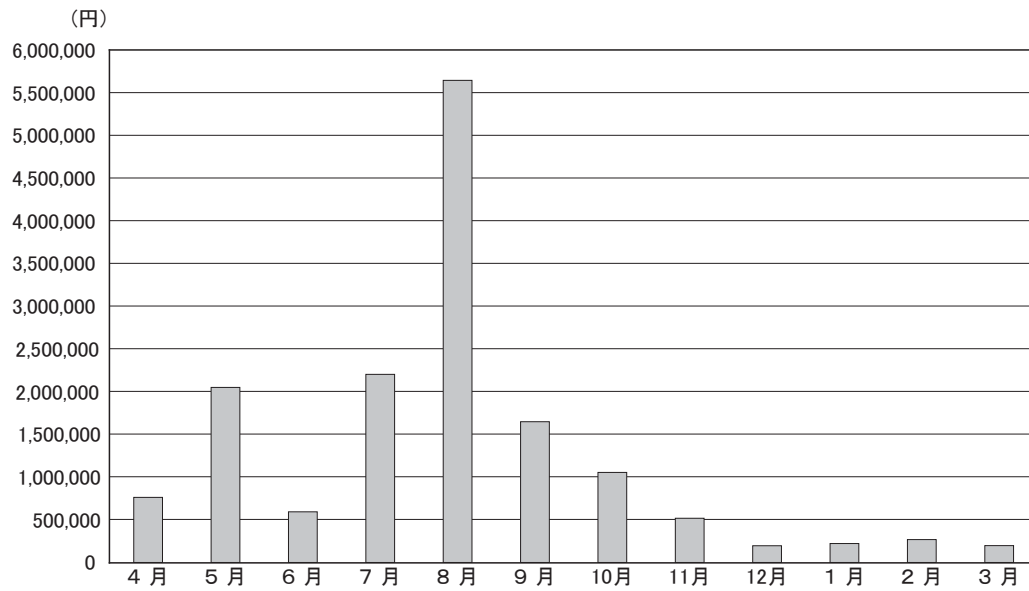
合 計	5,980,890
-----	-----------



□北の原キャンプ場収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入額 (円)	753,940	2,042,150	584,850	2,195,200	5,639,400	1,640,450	1,046,300	509,330	187,400	213,200	259,500	188,850

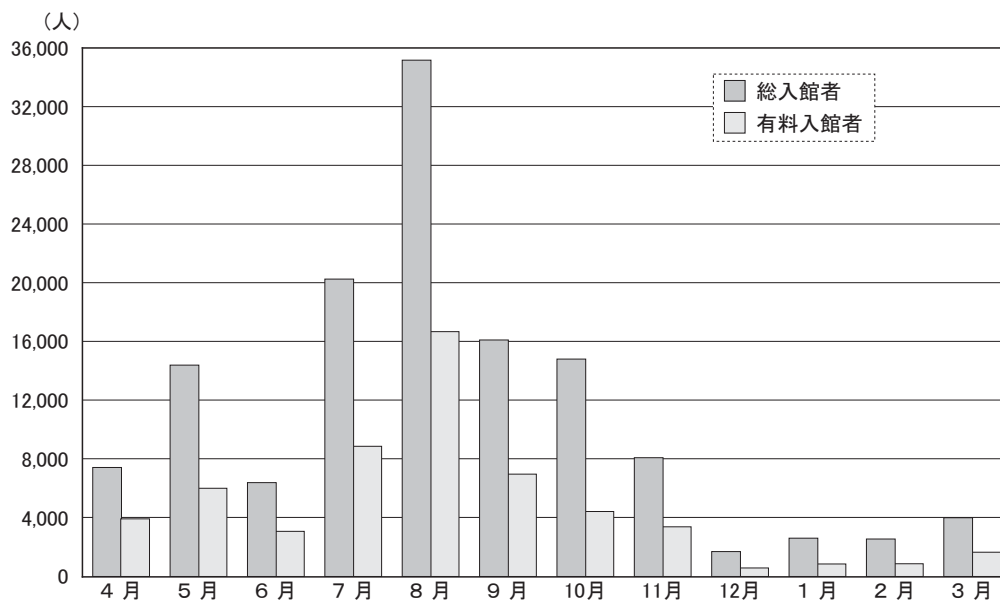
合 計	15,260,570
-----	------------



4 利用者数

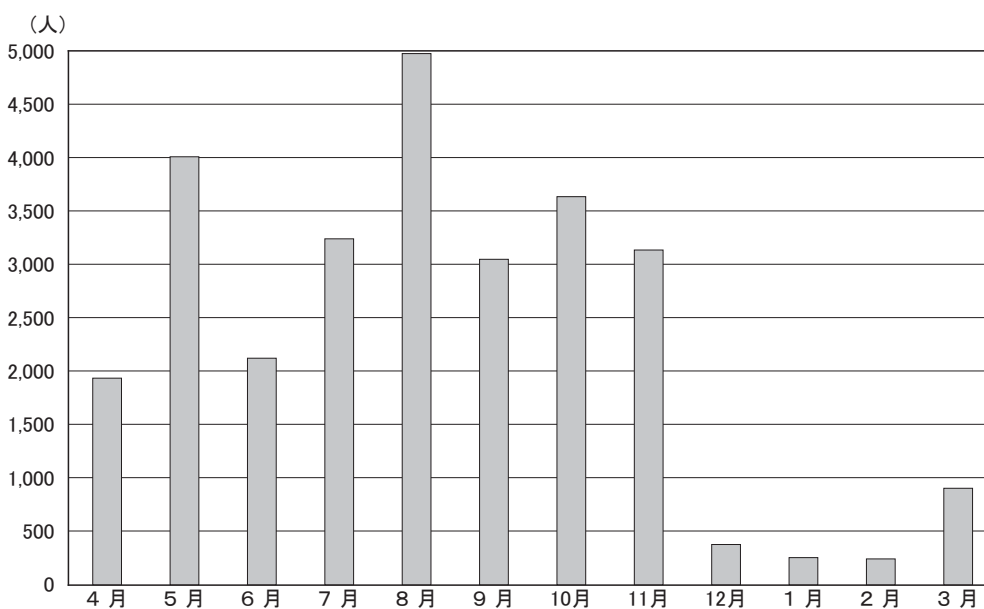
□島根県立三瓶自然館サヒメル

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
総入館者(人)	7,379	14,356	6,347	20,220	35,142	16,070	14,768	8,046	1,647	2,560	2,503	3,953	132,991
有料入館者(人)	3,878	5,962	3,026	8,823	16,638	6,925	4,378	3,335	530	802	817	1,603	56,717



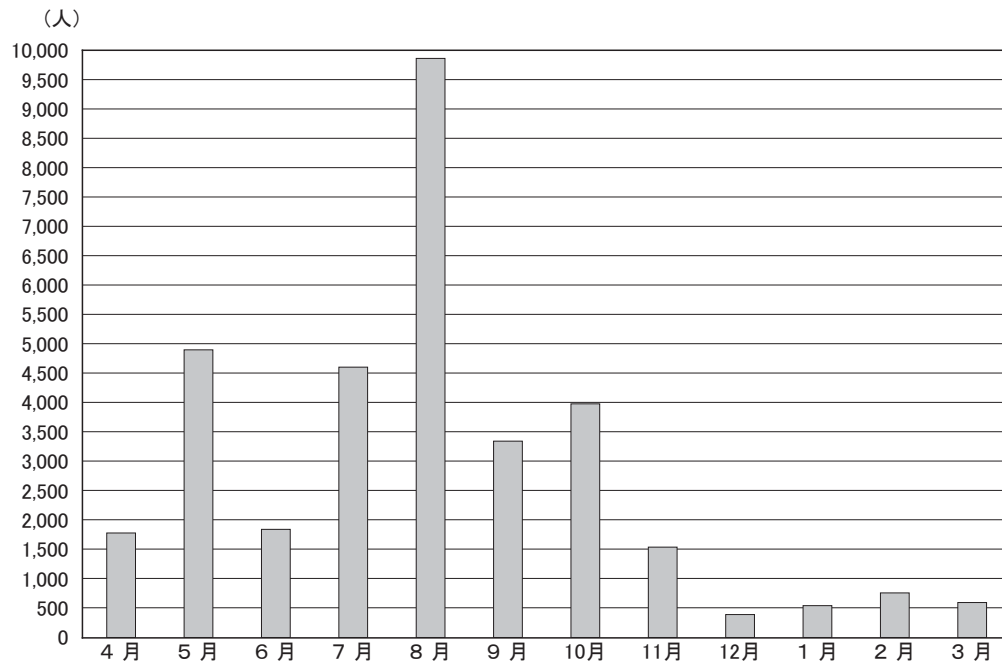
□三瓶小豆原埋没林公園

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
入園者数(人)	1,929	4,004	2,116	3,235	4,971	3,043	3,630	3,130	370	247	235	897	27,807



□三瓶山北の原キャンプ場

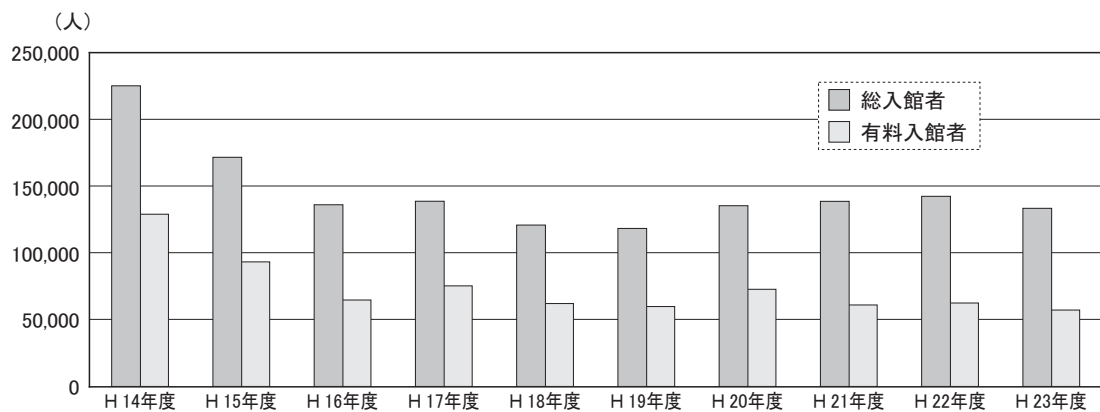
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用人数(人)	1,768	4,889	1,830	4,594	9,855	3,333	3,969	1,527	378	530	747	583	34,003



2. 利用者数の推移

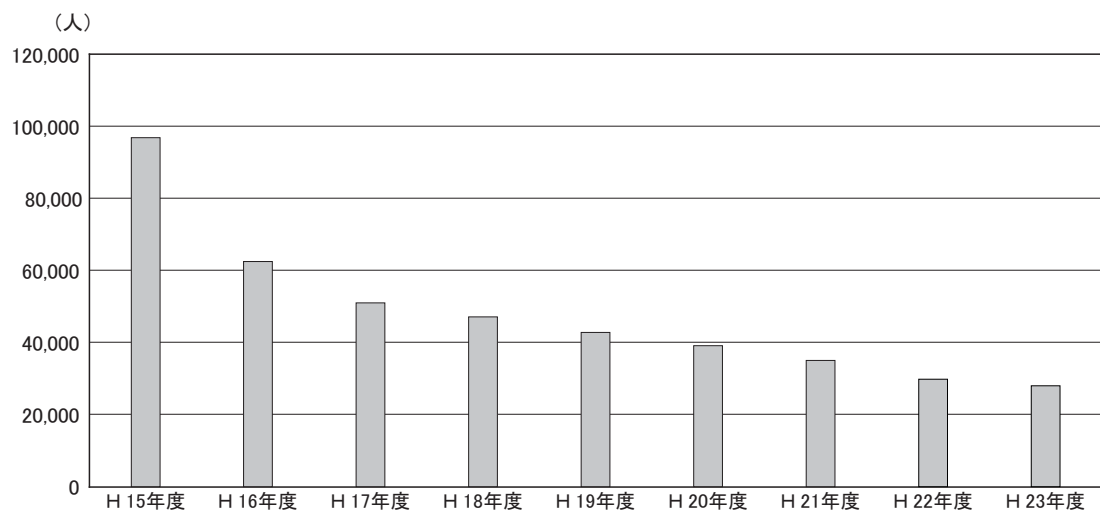
□島根県立三瓶自然館サヒメル

	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
総入館者(人)	222,185	171,430	136,706	136,776	122,308	115,601	134,956	138,231	144,629	132,991
有料入館者(人)	129,318	89,310	66,607	74,856	63,274	59,796	72,282	60,531	62,597	56,717



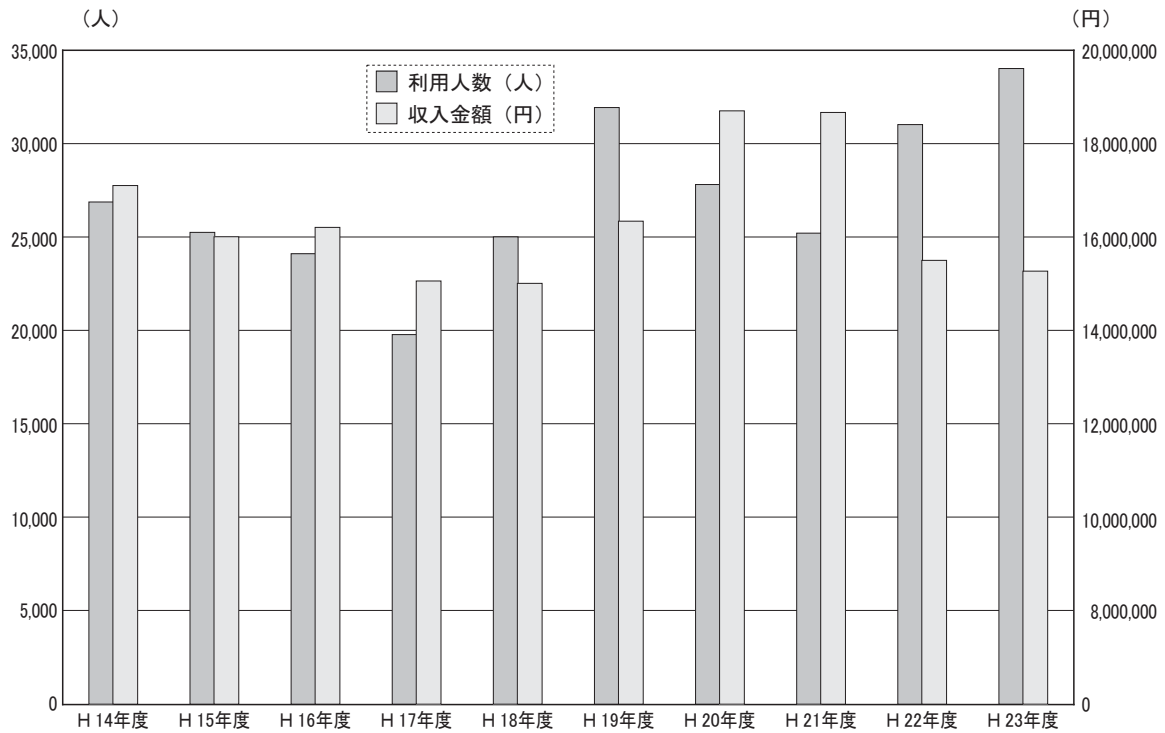
□三瓶小豆原埋没林公園

	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
総入園者(人)	96,709	62,315	50,832	46,943	42,625	38,948	34,846	29,669	27,807



□三瓶山北の原キャンプ場

	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
利用人数(人)	26,952	25,103	24,042	19,814	24,998	31,756	27,790	25,186	31,069	34,003
収入金額(円)	17,006,330	15,998,810	16,318,260	15,791,100	15,260,150	16,557,350	18,694,600	18,669,050	16,246,860	15,260,570



3. 沿革

昭和63年度	「三瓶フィールドミュージアム構想」が、先導事業開発構想推進会議で「リフレッシュリゾートしまね構想事業」として決定。同じく、自治省の「ふるさとづくり特別対策事業」として決定。
平成元年度	「三瓶フィールドミュージアム整備事業」開始。 三瓶自然館（以下「自然館」）中心とする三瓶フィールドミュージアムの基本・実施設計の作成。
平成2年度	自然館及び附属施設、着工。
平成3年度	財団法人三瓶フィールドミュージアム財団設立（7月1日、以下「財団」）。 自然館完成、全国育樹祭にともない皇太子殿下御来館。 自然館オープン（10月19日）。
平成4年度	財団、新たに「三瓶山北の原キャンプ場（以下「キャンプ場」）」の管理運営を受託。
平成5年度	三瓶フィールドミュージアム整備終了。 三瓶フィールドミュージアムが「三瓶山自然体験ゾーン」として島根県の長期計画（1994～2010年）の戦略プロジェクトに位置づけられる。
平成7年度	島根県、「三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会」を設置。
平成8年度	三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会、自然館の機能強化を求める報告書を提出。 キャンプ場、過去最高の年間5万4千人の利用者を記録。
平成9年度	自然館名誉館長として俳優の柳生博氏を起用、委嘱（平成15年度まで）。 常陸宮殿下、妃殿下御来館。
平成10年度	三瓶町多根小豆原で、約3,500年前に埋没したスギ林の存在を確認。調査方法及び保存方法の検討を開始。
平成11年度	島根県、「三瓶埋没林調査保存検討委員会」を設置。あわせて埋没スギの自然館での展示を検討。
平成12年度	三瓶山自然体験ゾーン拡充整備事業、整備着工。 キャンプ場新管理棟（セントラルロッジ）、完成。 三瓶埋没林調査保存検討委員会、埋没林の保存を求める報告書を提出。
平成13年度	島根県知事、小豆原埋没林の保存方針を発表。 自然館拡充工事開始。工事進捗にともない11月末をもって自然館閉館。
平成14年度	自然館拡充工事完了。「三瓶自然館サヒメル」として再オープン（4月18日）。 自然館、通算100万人の来館者を達成。 秋篠宮殿下、妃殿下御来館。 小豆原埋没林現地の公園化整備開始。 自然館、過去最高の年間22万人の来館者を記録。
平成15年度	キャンプ場へ利用料金制導入。 新たに「三瓶小豆原埋没林公園」の管理運営を受託。 「三瓶小豆原埋没林公園（以下「埋没林公園」）」オープン（5月2日）。 自然館、日本博物館協会に加盟。
平成16年度	「三瓶小豆原埋没林」国の天然記念物指定（2月27日）。 新たに「ふれあいの里奥出雲公園（以下「ふれあいの里」）」の管理運営を受託。 埋没林公園来園者10万人達成。
平成17年度	指定管理者制度が導入され、財団が自然館及び附属施設の指定管理者となる（平成17年度～平成21年度）。
平成18年度	7月豪雨によりふれあいの里が被災し、臨時休園となる。 自然館開館15周年（10月19日）。
平成19年度	高円宮妃殿下、自然館及びふれあいの里御来訪（4月30日）。
平成20年度	旧島根ふれあい環境財団21の事業及び財産を継承（4月1日）。 松江事務所開設。環境保全活動への助成、地球温暖化を含む環境問題の啓発等の事業を開始（4月1日）。 埋没林公園入園者30万人達成（4月12日）。 法人名称を「財団法人しまね自然と環境財団」に改称（7月1日）。 高円宮妃殿下御来館（1月22日）。
平成21年度	自然館、通算200万人の来館者を達成（7月12日）。 ふれあいの里、営業終了（12月。3月をもって正式閉鎖）。 自然館、プラネタリウム設備更新のためビジュアルドームの運営を休止（12月～3月）。3月末から新型プラネタリウムの運営開始 キャンプ場、大田市へ売却譲渡（3月）。
平成22年度	島根県から2期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指定を受ける。また大田市施設となったキャンプ場の指定管理者として、大田市から指定を受ける（いずれも平成22年度～平成26年度）。
平成23年度	財団、公益財団法人へ移行（4月1日）。これに伴い法人名称を「公益財団法人しまね自然と環境財団」に改称。 三瓶自然館、開館20周年。記念式典（7月15日）ほか、関連イベントを一年を通じて開催。 財団、自然館運営の検討機関として「三瓶自然館運営委員会」を設置（8月1日）。

4. 予 算

□平成23年度収入支出予算内訳書(H24.3.14補正後)

(単位：千円)

科 目	公 益 目 的 事 業 会 計				収 益 事 業 等 会 計				法人会計	合 計
	三瓶自然館 等運営事業	環境保全活動 支 援 事 業	共通	小 計	キャンプ場 管理運営事業	利 便 提 供 事 業	共通	小 計		
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	747	747
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20
事業収益	291,535	6,314	0	297,849	58,200	27,500	0	55,750	14,622	368,221
受取補助金等	14,964	53,438	0	68,402	0	0	0	0	0	68,402
受取寄付金	0	630	0	630	0	0	0	0	0	630
受取負担金	800	0	0	800	0	0	0	0	0	800
雑収益	200	559	0	759	0	0	0	0	53	812
経常収益計 (A)	307,499	60,941	0	368,440	28,200	27,550	0	55,750	15,442	439,632
(2) 経常費用										
事業費	317,934	61,243	0	379,177	28,200	27,550	0	55,750	0	434,927
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	16,599	16,599
経常費用計 (B)	317,934	61,243	0	379,177	28,200	27,550	0	55,750	16,599	451,526
評価損益等調整前当期経常増減額 (C)=A-B	△10,435	△302	0	△10,737	0	0	0	0	△1,157	△11,894
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計 (D)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額 (E)=C+D	△10,435	△302	0	△10,737	0	0	0	0	△1,157	△11,894
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計 (F)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計 (G)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額 (H)=F-G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額 (I)=E+H	△10,435	△302	0	△10,737	0	0	0	0	△1,157	△11,894
一般正味財産期首残高 (J)	32,990	2,832	0	35,822	542	12,216	0	12,758	12,222	60,802
一般正味財産期末残高(K)=I+J	22,555	2,530	0	25,085	542	12,216	0	12,758	11,065	48,908
II 指定正味財産増減の部										
基本財産繰入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	747	747
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	△747	△747
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	133,000	133,000
指定正味財産期末残高 (L)	0	0	0	0	0	0	0	0	133,000	133,000
III 正味財産期末残高 (K)+(L)	22,555	2,530	0	25,085	542	12,216	0	12,758	144,065	181,908

(注) 1. 収支予算書は、平成21年度から「公益法人会計基準の運用指針（平成20年4月11日 内閣府公益認定等委員会）」に示された様式（損益ベース）に準じて作成している。

2. 短期借入金限度額：19,000,000円（指定管理料を除く事業収益の20%以内（100万円単位）として設定）

3. 債務負担額：0円

4. 事業区分は移行認定申請における区分。

5. 「一般正味財産期首残高」は、平成22年度決算での期末残高の額。

6. 「一般正味財産期末残高」は、平成24年2月時での予測額。

5. 関連記事



標本を珍しげに眺める子どもたち（県立三瓶自然館サヒメルで）

虫の顔って面白い！

サヒメル 来月30日まで企画展

県立三瓶自然館サヒメル（大田市三瓶町）で、国内外の昆虫の標本やパネルなどを集めた企画展「虫たちの顔面相〜この顔に見覚えは？〜」が開かれている。5月30日まで。

同館が所蔵する100種類以上約1500点の標本を展示。世界最大級のカブトムシや、大きなあごを持つクワガタムシ、鮮やかな羽の模様が目を引くチョウなど、様々な昆虫が並ぶ。カブトムシとクワガタムシの拡大模型（10〜20倍）では、角や触角、複眼など体のつくりを紹介。2000

カブトムシなど 標本100種1500点

種類以上の昆虫画像をタッチパネルで拡大・縮小したり、マイクロスコップで標本を観察したりできる。昆虫写真家が拡大撮影した顔写真など計40点もある。

同館の吉本宏明・主任研究員は「昆虫にはいろんな顔、形があり、それは地球上で生きていくために必要なもの。日頃、気が付かない部分を見てほしい」と話している。入館料は大人600円、小中高生300円。問い合わせは同館（0865・4・86・0500）へ。（岡山格之）

読売新聞 11.4.15（金）

三瓶小豆原埋没林 小学理科教科書で紹介



三瓶小豆原埋没林が掲載された啓林館の小学6年生理科の教科書のページ（啓林館提供）

国の天然記念物に指定されている大田市三瓶町の三瓶小豆原埋没林が、小学6年生理科の教科書で「中国地帯の貴重な地帯・地質」として紹介されている。

本年度から小学6年生の理科の教科書で「中国地帯の貴重な地帯・地質」として紹介されている。三瓶小豆原埋没林は、約700年前に自然の力で地中に閉じ込められた巨大なスギ林が真空状態で保存された地質遺物になったもので、2004年に国の天然記念物に指定された。紹介している教科書は、啓林館（本社・大阪市）が完成し、文部科学省に提出。これ、教科書として、

減るオキナグサ 三瓶山で観察会



絶滅が心配される種としてしまねレッドデータブックに載っているオキナグサの観察会が29日、三瓶山（大田市）の北の原であった。写真。

キンボウゲ目キンボウゲ科の多年草。実のふさふさした毛を白髪に見立てて命名されたという。生育に適した草原が減ったことなどから数が減っている。

朝日新聞 11.5.1（日）

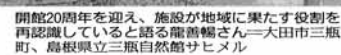
市内外から参加した約30人が、県立三瓶自然館サヒメルでボランティア解説員の案内で草原へ。紅色の花を見つけ、ルーペで観察したり写真に収めたりした。「観察会に何回来てても新しい発見がある」と参加した男性。今年、1〜2週間遅れてGWのころが見えるという。（中村正夫）

山陰中央新報 11.5.11（水）

<42>

「気づいては20年たて、善鶴さん(83)にまで聞いた」と感じ、「三瓶山で仕事をすゑを思ってもみなかった、新しい世界が開けた」。三瓶山や鹿の自然の素晴らしさをあたためて知ることができた。興立三瓶熱心サヘル氏の数少ない愛好家のスフィアの拠点施設として90年タツノの一人、副館長の龍から建設が始まり、翌91年

第8部 サヒメル ①



龍さんは、地域の小中卒の教師との連携が深め、児童や生徒に同席の持つ最先端の知識や技術を伝えることで、子どもたちの科学コミュニケーション力を高める構想を描いている。

「自分で考え、判断できる人材を地域で育てていきたい」

地域の博物館としての役割を踏まえ、次なるステップを、日々模索している。

（毎週月曜日掲載）

臨時職員4人の計6人態勢 算の立案、アテンダントの指導係など何でも手掛けだった。

龍さんは、地域の小中高

<47>

第8部 サヒメル ⑥

楽しみ自然学べる施設に



に、だに自ら自細め、全國に於て集まつた優秀な人材が自然館に集つた。人々が、一番の財産と胸を張るものは、安藤さん。

三瓶山をはじめとする島根の豊かな自然を守り、安藤さんともに、全世界がみなが自ら自然について考える施設に育て上げ。

目指す未来への確固たる信念を胸に、既存のプランに葛はれば、新たなプランをつかひのための戦略をきうも練る。

——第9部おわり——
(毎週月曜日掲載)

— 63 —

科学の「眼」で撮る サヒメルで写真展

動植物や自然現象などを科学の視点で撮った写真展「第32回SSP展」自然を「楽しむ科学の眼」が1月30日まで、大田市三瓶町多根の県立三瓶自然館サヒメル



で開かれている。サングソっくりな形に姿を変えたタツノオトシゴの一種「レグミーンシーホー」や、編み目のスカート

「ウスキキヌガサケ」、桜島の噴火で起きた「火山雷」など、自然や科学をテーマに活動する写真家や研究者らの集まり「日本自然科学写真協会」(SSP)の会員が国内外で撮影した112点を展示している。

サヒメルの担当者は「専門家の撮った珍しい写真を通して自然に親しんでほしい」と来館を呼びかけている。大人600円、小中高生200円。休館日は火曜日と29日・1月1日(3日は開館)。問い合わせはサヒメル(0854・86・0500)へ。

朝日新聞 11.12.16 (金)

動植物の一瞬 追って

自然科学写真協 サヒメルで作品展



珍しい動植物の写真をみる子どもたち(県立三瓶自然館サヒメルで)

日本自然科学写真協会(SSP)の会員が撮影した動植物や自然風景の写真を紹介する「第32回SSP展」自然を楽しむ科学の眼」が、大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルで開かれている。30日まで。SSPは、自然科学を専門とする全国の研究者や写真家、教職員らが集まる団体。会場には、国内外で撮影した作品112点が並ぶ。

キノコの種類「ハラタケ」から放出される胞子や、赤いサングに似たタツノオトシゴ・ピクミ

読売新聞 12.1.11 (水)

シーホース、日没後に餌を求めて動き回るアフリカ南部のケープギツネなど、日頃は目にすることのない動植物の一瞬をとらえている。

(岡山格之)

来春、三瓶に ドッグラン

大田市設置、ケビン隣接



大田市が来春にドッグランをオープンさせる予定の市営ケビン

大田市は2012年度、同市三瓶町の市営ケビン(約2千平方メートル、7棟の敷地内に、飼犬を自由に運動させることが出来る広場「ドッグラン」を設置し、市営ケビンや隣接する三瓶山北の原キャンプ場のケビン(13棟)で犬と一緒に宿泊できるサービスを開始する。自然豊かな三瓶地域に愛犬家と呼ばれることで地域活性化につなげる狙い。

市営ケビンは市森林組 理者となっている。市が昨年頃から購入した北の原キャンプ場の、からかね、ベットのケビンは財団法人「しま 宿泊を可能にしてほしい」という要望があること、田市)がそれぞれ指定管理や、市の施設である三瓶

ペットと一緒にの宿泊可能

大田市が来春にドッグランをオープンさせる予定の市営ケビン。具体的には、ケビンの敷地内に外周約170メートルのフェンスを設置し、内側で犬が自由に走れるようにする。フェンス購入費など総事業費は約700万円で、本年度中に着工し、ゴールデンウィークまでにオープンさせ、宿泊客に使用してもらう。市観光振興課の担当者によると、三瓶を訪れる愛犬家のニーズに応えるとともに、さらなる入り込みを図りたいとしている。

山陰中央新報 11.12.30 (金)

五感テーマに 春の企画展

大田サヒメル

大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルで10日から、生き物や機械の感覚をテーマにした春の企画展「五感のふしぎ」の目・虫の目・機械の目」が始まった。感覚体験メカなどの道具を使って、いろいろな体験を楽しめる。五月十四日まで。



同展では、左右が反対に見えるメガネ、高周波の音を聞く装置などを使うことで、普段

段意識することのない自分の感覚を認識できる。また、草食動物の視野を疑似体験したり、コウモリが放つ超音波の感覚機能に触れられる。期間中、関連イベントとして、風力発電装置作り(今月二十日、要予約)、クワイ試験体験(同二十日)が行われる。開館は午前九時半から午後五時まで。観覧料は大人六百円、小中高生二百円。問い合わせは同館(電話0854・86・0500)へ。

コウモリの超音波を疑似体験

島根日日新聞 12.3.12 (月)

五感の不思議 見て触れてみて

サヒメルで企画展

大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルで、見たり聞いたりする感覚を人間や動物、機械の視点から再現する企画展「五感のふしぎ」の目・虫の目・機械の目」が開かれている。5月14日まで。

会場には、視覚が反転する眼鏡や、周波数を聞き比べるヘッドホンなどが並び、ゴウモリが発する超音波を体感できるコーナーでは、ゴウモリに似せた発生器を使って超音波を再現。無線操縦で手足を広げたり回転したりするロボットに触れるコーナーもある。

入館料は大人600円、小中高生200円、幼児無料。火曜休館（5月1日は開館）。問い合わせは同館（0854・86・0000）へ。（岡山格之）



様々な動作をするロボットを操縦する子どもたち

読売新聞 12.3.18 (日)

本紙連載「ふるさと自然散策」200回 ▶▶▶

四季の魅力伝える機会

執筆のサヒメル井上さんに聞く

県内の自然を巡る話題をつづった本紙連載「ふるさと自然散策」が18日付で200回を迎えた。県立三瓶自然館サヒメル（大田市）の学芸員らが執筆し、2007年6月にスタート。毎週1回、三瓶山の昆虫から遠い宇宙の星雲まで、季節に応じて幅広いテーマを取り上げてきた。執筆者の一人である同館学芸課長代理の井上雅仁さん（40）（植物担当）に執筆への思いを聞いた。（岡山格之）

読者反響励みに

「初回は『ギアシドクガ』という06年に大発生したガの話。09年7月には当時起きた『日食』を取り上げたことも。タイムリーな話題も多かった。『専門分野ごとに何人かの学芸員が交代で執筆を担当しました。節目を迎えることができ、とてもうれしです。毎週、話題を探すのに苦戦しましたが『季節ごと』に新たな発見がで



「自然を伝える良い機会。これからも続けていきたい」と語る井上さん（県立三瓶自然館サヒメルで）

て面白い」と話す同僚もいます。どの学芸員も長いようで短かったという印象が強いようです。雪に残った足跡から動物の歩き方を分析した「キツネの足跡」などユニークなテーマもあった。井上さんは植物を担当しましたが、どうしても冬は旬の話題が少なかった。そんな時、タラノギの枝にスボットの葉を当て、枝にあるタラノギの落葉痕や器官の跡を示して「人や動物の顔に見える」と驚きと、紹介したこともありました。いろいろな視点から自然を発信しようとしてきました。

「鳥類担当者は書きたいことがあっても、簡単に写真を撮ることができず、手元にある写真から毎回テーマを考えていたようです。天文担当もテーマに見合った写真を撮影したり、探したりするのは大変な作業でした。『そんな苦労も多かったですが、この間の記事、良かったですね』『興味深く読ませていただきました』と読者の反響もあり、次回作への励みになりました。これからも身近で気付きにくいテーマを掘り起こしていきたいと思います。連載では地元・三瓶山が舞台となることが多い。改めてその魅力を、季節によって山肌の色合いにメリハリがあり、四季をはっきり感じ取ることができ、美しい景観だけでなく、初心者にも最適な山登りコースが備わっていることも大きな魅力の一つ。周りを見渡せば豊かな自然林あり、草原ありの素晴らしい国立公園です。『植物担当の私にとって、草花の見聞や案内をタイムリーにPRすることができ、自然を伝える良い機会を頂いているので、これからも連載を続けていきたいですね』

読売新聞 12.3.18 (日)

6. 資料

□Ⅱ. 島根県立三瓶自然館 2. 普及啓発事業

4. 3 読売新聞「おぼろ月夜」 竹内 幹蔵
 4. 6 島根日日新聞「学校団体向け天体観察会」 竹内 幹蔵
 4. 10 読売新聞「オリオン座の馬頭星雲」 矢田 猛士
 4. 17 読売新聞「コウモリに寄生する蠅」 大畑 純二
 4. 20 島根日日新聞「季節のものさし」 星野由美子
 4. 24 読売新聞「松代鉱山の霞石」 中村 唯史
 5. 1 読売新聞「一足おそい三瓶山頂の春」 井上 雅仁
 5. 4 島根日日新聞「町歩き」 中村 唯史
 5. 8 読売新聞「かみのけ座」 太田 哲朗
 5. 15 読売新聞「冬を越すキリギリス」 皆木 宏明
 5. 18 島根日日新聞「テンピー登場」 太田 哲朗
 5. 22 読売新聞「巣箱のゴジュウカラ」 星野由美子
 5. 29 読売新聞「明け方の月と惑星」 竹内 幹蔵
 6. 1 島根日日新聞「三瓶山で学んで守って」 井上 雅仁
 6. 5 読売新聞「土星を見つけよう」 矢田 猛士
 6. 12 読売新聞「アブラコウモリ」 大畑 純二
 6. 15 島根日日新聞「標本はどこに？」 皆木 宏明
 6. 19 読売新聞「立神岩」 中村 唯史
 6. 26 読売新聞「赤名湿地とハンカイソウ」 井上 雅仁
 6. 29 島根日日新聞「土星の環の傾き」 矢田 猛士
 7. 3 読売新聞「星の明るさ」 太田 哲朗
 7. 10 読売新聞「ハッチョウトンボ」 皆木 宏明
 7. 13 島根日日新聞「この20年間における天災と人災」 大畑 純二
 7. 17 読売新聞「ヒヨドリ」 星野由美子
 7. 24 読売新聞「ブラックホール」 竹内 幹蔵
 7. 27 島根日日新聞「開館20周年記念番組を作る」 竹内 幹蔵
 7. 31 読売新聞「夏の天の川」 矢田 猛士
 8. 7 読売新聞「ジガバチ」 大畑 純二
 8. 10 島根日日新聞「バードウォッチングに挑戦!!」 星野由美子
 8. 21 読売新聞「クレーターの見え方の変化」 太田 哲朗
 8. 24 島根日日新聞「44年ぶり公開の鉱石」 中村 唯史
 8. 28 読売新聞「初秋の三瓶山を彩るイヨフウロ」 井上 雅仁
 9. 4 読売新聞「コクワガタ」 皆木 宏明
 9. 7 島根日日新聞「まっすぐ？ ななめ？ ドームのタイプ」 太田 哲朗
 9. 11 読売新聞「カルガモ」 星野由美子
 9. 18 読売新聞「秋の高い空」 竹内 幹蔵

(4) 新聞への寄稿

9. 21 島根日日新聞「真冬の隠岐で生き物を調べる」 井上 雅仁
 9. 25 読売新聞「エサキムカシハナバチ」 大畑 純二
 10. 2 読売新聞「木星の縞」 矢田 猛士
 10. 5 島根日日新聞「ショウリョウバッタ」 皆木 宏明
 10. 9 読売新聞「生命育む静間川」 中村 唯史
 10. 16 読売新聞「新しい秋の風物詩？」 井上 雅仁
 10. 19 島根日日新聞「一眼レフデジタルカメラで天体写真」 矢田 猛士
 10. 23 読売新聞「1秒と230万年」 太田 哲朗
 10. 30 読売新聞「枯蟬」 皆木 宏明
 11. 2 島根日日新聞「石見の人麿一都への道筋」 大畑 純二
 11. 6 読売新聞「冬の訪れ」 星野由美子
 11. 13 読売新聞「歳星」 竹内 幹蔵
 11. 16 島根日日新聞「木星と十二支」 竹内 幹蔵
 11. 20 読売新聞「クロゲンセイ」 大畑 純二
 11. 27 読売新聞「らせん星雲」 矢田 猛士
 11. 30 島根日日新聞「「？」→「！」」 星野由美子
 12. 4 読売新聞「泉ヶ鼻の泡」 中村 唯史
 12. 11 読売新聞「マユミの実」 井上 雅仁
 12. 14 島根日日新聞「カリスマ添乗員と埋没林」 中村 唯史
 12. 18 読売新聞「人間の一年、地球の一年」 太田 哲朗
 1. 8 読売新聞「バイイ」 竹内 幹蔵
 1. 11 島根日日新聞「龍の名をもつ植物」 井上 雅仁
 1. 15 読売新聞「宵の明星」 矢田 猛士
 1. 22 読売新聞「冬眠の季節」 大畑 純二
 1. 25 島根日日新聞「ハチの巣の中は？」 皆木 宏明
 1. 29 読売新聞「益田海岸の石の帯」 中村 唯史
 2. 5 読売新聞「セツブンソウ」 井上 雅仁
 2. 8 島根日日新聞「三瓶山と星の動き」 矢田 猛士
 2. 12 読売新聞「ベテルギウス」 太田 哲朗
 2. 19 読売新聞「マツモムシ」 皆木 宏明
 2. 22 島根日日新聞「冬の自然観察」 大畑 純二
 2. 25 読売新聞「シロハラ」 星野由美子
 3. 4 読売新聞「「大」部分日食を見よう！」 竹内 幹蔵
 3. 7 島根日日新聞「東日本大震災被災地支援」 竹内 幹蔵
 3. 11 読売新聞「火星が見ごろ」 矢田 猛士
 3. 18 読売新聞「キツネ」 大畑 純二
 3. 21 島根日日新聞「春の渡り」 星野由美子
 3. 25 読売新聞「要害山の柱石」 中村 唯史

□Ⅱ. 島根県立三瓶自然館 2. 普及啓発事業 5 教育学習活動 (2) 館内案内・テーマ解説

月	日	団 体 名	人 数
4	22	大田市立志学小学校	28
5	6	雲南市立大東小学校	79
	28	大田市立北三瓶小学校	35
6	1	奥出雲町立高田小学校	7
	30	美郷町立大和小学校	15
7	4	大田市立大森小学校	23
	7	益田高校スーパーサイエンススクール	25
	27	広島県教委新採研修	52
	28	広島県教委新採研修	54
8	4	島根県教委新採研修	33

月	日	団 体 名	人 数
8	5	浜田市立第二中学校	8
	20	日本宇宙少年団呉やまと分団	70
	24	飯南町立赤来中学校	31
9	3	石見銀山三日ごもり	27
10	5	江津市立跡市小学校	25
	13	大田市立鳥井小学校	15
11	16	神杉シルバー大学	60
12	19	邑南町立阿須那小学校	9
1	25	邑南町立邑智小学校	28
合 計		19	624

□Ⅱ. 島根県立三瓶自然館 2. 普及啓発事業 5 教育学習活動 (2) 講師派遣

月	日	団 体 名	場 所	内 容	講 師
4	17	徳島大学環境防災研究センター	徳島大学	生物多様性シンポジウム話題提供	井上
	19	キリスト教愛真高等学校	キリスト教愛真高等学校	植物の自然観察、採集、試食	大畑
	19	大田市温泉津公民館	大田市温泉津公民館	野山の散策と植物観察	井上
5	6	湊原体験学習センター	浜遊自然館	星座観察会	竹内
	6・8	島根県自然環境課	あいらんどパークホテル	自然観察指導員講習会	星野
	8	津和野町エコツーリズム協議会	安蔵寺山	安蔵寺山での自然観察	井上
	20	大田市立北三瓶中学校	三瓶山姫逃池	カキツバタの学習	井上
	21	波多コミュニティ協議会	波多ふれあいの里	田舎ツーリズム島根県内研修会	星野
6	2	江津市立郷田小学校	郷田小学校	自然工作「エコバッグを作ろう」	井上、太田
	11	邑南町口和公民館	ほたる館	ホタル観察会	皆木
	25	福井県自然保護センター	うらら館研修室	オキナグサ学習会	井上
	25	石見銀山ガイドの会	石見銀山周辺	石見銀山周辺の野鳥観察	星野
	26	大田市中央公民館	大田市中央公民館	環境学習「自然たんけん隊」	中村
	30	大田市立高山公民館	石見銀山公園周辺	石見銀山周辺の野鳥観察	星野
	30	教職員退職互助会	あすてらす	三瓶の自然に関する講演会	中村
7	8	智弁学園中学校	三瓶青少年交流の家	三瓶の自然と文化についての講話	皆木
	9	小田真木地域活性化組織	飯南町小田地区真木地区	ホタル観察	皆木
	11	来待ストーン	来待ストーン	企画展「太古からの使者化石展」展示指導	河野
	14	智弁学園和歌山中学校	三瓶青少年交流の家	三瓶の自然と文化についての講話	皆木
	17	大田市立中央公民館	中央公民館	環境学習「自然たんけん隊」	中村
	26	邑南町阿須那公民館	阿須那公民館	外来植物について	井上
	27	国立三瓶青少年交流の家	三瓶自然館	広島県教育委員会平成23年度初任者研修	井上、竹内、星野、皆木
	28	国立三瓶青少年交流の家	三瓶自然館	広島県教育委員会平成24年度初任者研修	井上、竹内、星野、皆木
8	4	邑智小学校	邑智小学校周辺	田んぼの生き物教室	皆木
	5	国立三瓶青少年交流の家	三瓶自然館	教員免許状更新講習	竹内
	7	国立三瓶青少年交流の家	三瓶自然館	教員免許状更新講習	葭矢
	8	香川県高等学校教育研究会	三瓶山及び周辺地域	三瓶火山の堆積物など野外での観察及び研修	河野
	24・26	近畿中国四国農業研究センター	熊本県阿蘇郡	植生調査に関する助言	井上
	31	島根大学	島根大学演習林	演習林実習の指導	皆木
9	18	島原半島ジオパーク推進連絡協議会	南島原市文化センター他	ジオパーク・キッズ探検隊2011	河野
	20	大田市立池田中学校	池田中学校	地域の自然についての学習	井上
	25	波多コミュニティ協議会	さえぎりの森	バードウォッチングガイド養成講座	星野
	30	湊原体験学習センター	浜遊自然館	星座観察会	竹内
10	1	波多コミュニティ協議会	さえぎりの森	バードウォッチングガイド養成講座	星野
	7	広島市立美鈴が丘高校	多伎海岸	海岸の化石採集	河野
	16	井尻交流センター	井尻交流センター	伊達源一郎没後50周年記念事業での講演	星野
	18	大田市立高山小学校	高山小学校	「みどりの道」自然体験学習	井上
	20・24	公益財団法人日本自然保護協会	関西学院千刈キャンパス	NACS・J 自然観察指導員講習会	星野
11	11	出雲市立鰐淵小学校	鰐淵小学校	アサギマダラについて	皆木
	17	日本博物館協会中国支部	広島県立歴史博物館	「学校教育に対する博物館の役割と実践」での講演	星野
12	14	川本町立三原小学校	川本町立三原小学校	科学実験の演示	龍
1	14	E P O 中国	宍道湖グリーンパーク	野鳥観察	星野
2	10	鰐淵小学校3, 4年生益田市教育研究会生活科部会	鰐淵小学校	アサギマダラの生態と渡りについて	皆木
3	7・8	香港大学	島根大学ほか	島根半島における日本海形成期の古生物の紹介	河野
	11	川本町自然大好きネットワーク	谷戸集会所	イズモコバイモ学習会での講演	井上
	17	島根大学	島根大学	島根半島のジオサイトについての講演	河野
	18	川本町自然大好きネットワーク	谷戸集会所	イズモコバイモ学習会での講演	葭矢

□Ⅱ. 島根県立三瓶自然館 2. 普及啓発事業 6 天体観察会 (2) 予約天体観察会

月	日	団 体 名	人数
4	3	長久川北中下子ども会	27
	3	個人グループ	6
	10	広島県立海田高校	169
	11	広島県立海田高校	168
	14	三次市立塩町中学校	59
	15	英数学館高校	42
	22	個人グループ	2
	27	三次市立三良坂中学校	40
	29	広島医療保健専門学校	35
	29	個人グループ	26
5	1	個人グループ	45
	1	島根県立出雲高等学校	4
	12	三和中学校	241
	24	広島市立祇園東中学校	210
	26	出雲市立高松小学校	109
	27	広島市立口田中学校	294
	29	個人グループ	47
6	1	広島市立城南中学校	293
	2	山陽女学園高等部	189
	15	浜田市立金城中学校	33
	16	松江市特別支援学級	32
	24	入間交流センター	17
	30	広島市立高陽中学校	148
7	1	邑智小学校	55
	3	五十猛小学校親子会	39
	7	広島大学附属三原中学校	87
	13	広島市立宇品中学校	211
	14	広島市立温品小学校	84
	14	広島市立蒲刈中学校	32
	15	広島市立鈴張小学校	23
	17	個人グループ	11
	21	広島市立深川小学校	92
	22	広島市立安北小学校	109
	22	広島市立井口明神小学校	94
	24	出雲科学館	22
	27	山村留学センター	26
	30	青少年ネットワーク	37
	30	青少年育成協議会	13
	31	個人グループ	15
	31	大田市立仁万小学校	52
	31	個人グループ	13
8	1	稗原コミュニティセンター	19
	3	波多コミュニティ協議会	51

月	日	団 体 名	人数
8	3	浜田児童相談所	16
	4	ボーイスカウト島根連盟	56
	5	教育免許状更新講習会	36
	9	出雲児童相談所	20
	9	高浜コミュニティ	33
	18	山村留学センター	23
	18	島根スイミングスクール出雲	23
	21	広島市立幟町小学校	70
	23	北広島町立大朝中学校	38
	24	広島市立矢野小学校	116
	25	大田ルーテルラブラリー児童クラブ	40
	26	広島市立庚午小学校	149
9	28	広島市立古田台小学校	50
	29	山本ピアノ教室	28
	30	たちばな保育園	32
	8	北広島町立亀山南小学校	94
	9	松江高等技術専門学校	39
	9	個人グループ	34
	15	邑南町立矢上小学校	55
	15	大田市立志学小学校	32
	18	個人グループ	6
	21	松江市立第三中学校	108
	23	個人グループ	22
	25	福祉リソースカレッジ広島	81
10	6	島根県立大田高校理数科	33
	6	広島市立美鈴が丘高校	43
	13	大森小・高山小・大代小合同研修	21
	13	大田市立大田小学校	104
	19	島根県立横田高校	115
	20	米子高等専門学校	88
	26	広島市立五日市南中学校	197
	28	なぎさ公園小学校	79
11	2	出雲市立今市小学校	103
	4	個人グループ	3
	9	波多コミュニティセンター	25
	23	摩耶山友会	9
12	2	大田市立第三中学校	13
1	8	神戸地区青少年協議会	58
	28	神西コミュニティ	21
2	10	出雲市立高浜幼稚園	22
3	10	国立三瓶青少年交流の家	42
	24	荒島小学校親子会	26
合 計		88	4,813

□Ⅱ. 島根県立三瓶自然館 2. 普及啓発事業 7 自然観察会 (2) 予約自然観察会

月	日	団 体 名	人数
4	22	大田市立志学小学校	28
	27	大田市北三瓶小学校	12
5	11	大田市立北三瓶小学校	23
	19	やまびこ会	22
	26	大田市立池田小学校	16
6	1	奥出雲町立高田小学校	7
	4	山陽女子学園高等部	16
	5	ひろしま自然の会	22
	16	大田市立池田・北三瓶小学校	28
	22	松江市特別支援学級	52
	30	広島市立高陽中学校	140
7	1	くにびき学園	24
	8	広島大学附属三原中学校	87
	11	飯南町立来島小学校	10
	21	安田学園安田小学校	93
	25	松江市教育研修会	11
8	5	大田市山村留学センター	6
	6	ボーイスカウト島根連盟	93
	6	大田市山村留学センター	6
	20	さざなみ学校自然体験教室	35
	23	大田市理科部会 J S T 事業	13
	30	大田市立川合小学校	26
	30	たちばな保育園	31
9	1	大田市立川合小学校	28
	7	出雲市立四絡小学校	103
	8	北広島市立亀山南小学校	30
	11	雲南市立鍋山小学校	30
	14	芸北トレッキングガイドの会	9
	16	シニア自然大学校	31
10	3	大田市立志学小・池田小・北三瓶小合同学習	22
	5	江津市跡市小学校	25
	6	広島市立美鈴が丘小学校	42

月	日	団 体 名	人数
10	6	飯南町立赤名小学校	17
	6	大田高校サイエンスセミナー	33
	7	長久保育園	17
	7	大田高校サイエンスセミナー	33
	12	斐川町立中部小学校	85
	13	高山小・大森小合同研修	18
	14	大田市立大田小学校	77
	17	江津市立津宮小学校	57
	19	出雲市立北陽小学校	106
	19	大田市立北三瓶小学校	30
	20	大田市立五十猛小学校	21
	21	長久保育園	17
	24	大田市立川合小学校	16
	26	大田市立久屋小学校	11
	28	大田市立鳥井小学校	12
	29	なぎさ公園小学校	79
11	2	邑南町立瑞穂小学校特別支援学級	6
	2	さくら保育園	31
	3	出雲市立今市小学校	108
	4	松江市立母衣小学校	88
	6	レクプラザあいあい	7
	14	大田市立久屋小学校	14
	18	邑南町立石見東小学校	17
	18	飯南町立来島小学校	11
	20	J A F 会員	53
	21	出雲市立大津小学校	105
	24	大田市立静間小学校	10
12	28	邑南町立矢上公民館	27
	30	大田市立富山小学校	11
	1	大田市立北三瓶小学校	9
	1	邑南町立阿須那小学校	19
2	1	大田市立大田小学校	107
合 計		64	2, 373

7. 評議員会・理事会

1 評議員会

①第1回評議員会（平成23年度定時評議員会）

- ・開催日：平成23年6月20日
- ・開催場所：島根県立三瓶自然館
- ・出席数：評議員7名、監事1名
- ・議題：報告事項 第1回定時理事会について
第1号議案 平成22年度事業報告及び決算報告に関する件
- ・結果：原案どおり承認決議

②第2回評議員会（臨時会）

- ・開催日：平成24年3月19日
- ・開催場所：島根県立三瓶自然館
- ・出席数：評議員6名、監事1名
- ・議題：報告事項1 平成23年度の事業概況について
報告事項2 平成24年度事業計画及び予算について
第1号議案 理事の辞任に伴う後任理事の選任に関する件
第2号議案 評議員の辞任に伴う後任評議員の選任に関する件
- ・結果：全号とも原案どおり選任

2 理事会

①第1回理事会（平成23年度第1回定時理事会）

- ・開催日：平成23年5月27日
- ・開催場所：島根県立男女共同参画センター（あすてらす）
- ・出席数：理事5名、監事1名
- ・議題：第1号議案 平成22年度事業報告及び決算報告に関する件
第2号議案 第1回定時評議員会の招集に関する件
第3号議案 三瓶自然館運営委員会の設置に関する件
報告事項 理事長及び常務理事の職務執行状況
- ・結果：全号とも原案どおり承認決議

②第2回理事会（臨時会）

- ・開催日：平成23年12月19日
- ・開催場所：大田商工会議所
- ・出席数：理事5名、監事2名
- ・議題：報告事項 理事長及び常務理事の職務執行状況
第1号議案 平成23年度事業計画の変更及び予算の補正に関する件
第2号議案 第2回評議員会（臨時評議員会）の招集に関する件
- ・結果：全号とも原案どおり承認決議

③第3回理事会（平成23年度第2回定時理事会）

- ・開 催 日：平成24年 3 月14日
- ・開催場所：島根県立男女共同参画センター（あすてらす）
- ・出 席 数：理事 5 名、監事 1 名
- ・議 題：報 告 事 項 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - 第 1 号議案 理事の辞任に伴う後任候補者の推薦に関する件
 - 第 2 号議案 評議員の辞任に伴う後任候補者の推薦に関する件
 - 第 3 号議案 平成23年度予算の補正に関する件
 - 第 4 号議案 平成24年度事業計画及び予算の件
 - 第 5 号議案 重要な職員の任免に関する件
- ・結 果：全号とも原案どおり承認決議

④第4回理事会（臨時会）

- ・開 催 日：平成24年 3 月28日
- ・開催場所：仁万屋
- ・出 席 数：理事 5 名、監事 2 名
- ・議 題：第 1 号議案 理事長選定に関する件
 - 第 2 号議案 重要な職員の任用に関する件
- ・結 果：全号とも原案どおり承認決議

3 三瓶自然館運営委員会

本委員会は、当財団が指定管理者として島根県立三瓶自然館及びその附属施設を運営するにあたり、島根県の自然系博物館としてのあり方や、広く県民に親しまれ利用される方策について協議するための、外部委員による会である。

第 1 回運営委員会

- ・開 催 日：平成23年 9 月21日
- ・開催場所：島根県立三瓶自然館
- ・出 席 数：10名
- ・概 要：委員長の選出後、三瓶自然館の運営状況と課題について意見交換を行った。主な内容は次のとおり。館の利用促進、展示や設備機器の老朽化、企画展、埋没林公園の活用、地域との連携強化。

8. 条 例

□島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例

平成16年10月12日

島根県条例第52号

島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例（平成3年島根県条例第27号）の全部を改正する。

（趣旨）

第1条 この条例は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第2条 三瓶山及びその周辺地域の豊かな自然の中に、自然と親しむ場を確保し、あわせて自然環境に関する学習の機会を提供するため、島根県立三瓶自然館（以下「自然館」という。）及びその附属施設（以下「自然館等」という。）を大田市に設置する。

（業務）

第3条 自然館等は、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 自然保護に関する普及啓発及び調査研究に関すること。
- (2) 環境学習の推進に関すること。
- (3) 島根県の自然環境及び自然史に関連する展示並びに博物館資料の収集、保管及び活用に関すること。
- (4) 自然館の施設のうち別表第1に掲げる有料施設（以下「有料施設」という。）を一般の利用に供すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、自然館等の目的を達成するために必要な業務

（附属施設）

第4条 附属施設は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 北の原フィールドセンター
- (2) 三瓶小豆原埋没林公園（以下「埋没林公園」という。）
- (3) その他自然館の設置目的を達成するために必要な施設

（指定管理者による管理）

第5条 自然館等の管理は、法人その他の団体であって、知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）にこれを行わせるものとする。

（指定管理者が行う業務）

第6条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 有料施設の利用の許可に関する業務
- (2) 自然館等の施設及び設備（以下「施設等」という。）の維持管理に関する業務
- (3) 第3条第1号から第3号までに掲げる業務
- (4) 前3号に掲げるもののほか、自然館等の運営に関する事務のうち、知事のみの権限に属する事務を除く業務

（指定管理者の指定の申請等）

第7条 知事は、指定管理者を指定しようとするときは、特別の事情があると認める場合を除き、公募するものとする。

2 第5条の規定による指定を受けようとするものは、申請書に事業計画書その他規則で定め類を添付して、知事が定める期日までに知事に提出しなければならない。

（指定管理者の指定）

第8条 知事は、次の各号に掲げる基準をいずれも満たすもののうち、自然館等の管理を行わせるのに最も適した団体を候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。

- (1) 事業計画書の内容が、住民の平等な利用が図られるものであること及びサービスの向上が図られるものであること。
- (2) 事業計画書の内容が、自然館等の効用を最大限に発揮するものであること。
- (3) 事業計画書の内容が、施設等の適切な維持管理を図ることができるものであること及び管理に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (4) 当該団体が、事業計画書に沿った管理を安定して行う財政的基礎及び人的能力を有するものであること。

(事業報告書の作成及び提出)

第9条 指定管理者は、規則で定める日までに、自然館等の管理の業務に関し、規則で定める内容を記載した事業報告書を作成し、知事に提出しなければならない。

(業務報告の聴取等)

第10条 知事は、自然館等の管理の適正を期するため、指定管理者に対し、その管理の業務又は経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

第11条 知事は、指定管理者が前条の指示に従わないとき、その他指定管理者の責めに帰すべき事由により当該指定管理者による管理を継続することができないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定により指定管理者の指定が取り消され新たな指定管理者が自然館等の管理を行うまでの期間又は指定管理者が管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられた期間における自然館等の管理は、必要に応じて知事が行うものとする。この場合において、次条から第20条までの規定中指定管理者の権限とされているものについては、知事の権限とする。

3 第1項の規定により指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じて、知事はその賠償の責めを負わない。

(開館時間等)

第12条 自然館及び北の原フィールドセンターの開館時間並びに埋没林公園の開園時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 有料施設の利用時間は、別表第1に掲げるとおりとする。

3 前2項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、知事の承認を受けて、開館時間、開園時間又は利用時間を変更することができる。

(休館日等)

第13条 自然館及び北の原フィールドセンターの休館日並びに埋没林公園の休園日は、次のとおりとする。

- (1) 7月21日から8月31日までの間を除く火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日にあたる場合は、その翌日以降の最初の休日でない日）
- (2) 3月、6月、9月及び12月の各第1月曜日から5日間
- (3) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、知事の承認を受けて、休館日又は休園日を変更することができる。

(利用の許可)

第14条 有料施設を利用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、有料施設の利用の目的、方法等が次の各号のいずれかに該当するときは、前項の許可をしないものとする。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあると認められるとき。
- (2) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の財産上の利益になるおそれがあると認められるとき。
- (3) 自然館等の施設又は設備を損壊するおそれがあると認められるとき。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、自然館等の管理に支障があると認められるとき。

3 指定管理者は、管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

（許可の取消し等）

第15条 指定管理者は、前条第1項の許可を受けた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、その者に対して、同項の許可を取り消し、同条第3項の規定により許可に付した条件を変更し、又は利用の中止若しくは自然館等からの退去を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
- (2) 前条第3項の規定により許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により許可を受けたとき。

（利用料金等）

第16条 第14条第1項の許可を受けた者は、その利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に支払わなければならない。

2 自然館において、天体運行の投影、全天周映画若しくは展示物を観覧しようとする者、自然館の観察施設を利用して天体を観覧しようとする者又は埋没林公園の埋没木その他の展示物（以下「埋没木等」という。）を観覧しようとする者（いずれも未就学児を除く。）は、観覧料を支払わなければならない。

3 利用料金及び観覧料（以下「利用料金等」という。）は、指定管理者にその収入として収受させる。

4 利用料金等は、別表第1から別表第3までの表に掲げる基準額に0.8を乗じて得た額から当該基準額に1.2を乗じて得た額までの範囲内の額で、指定管理者が知事の承認を受けて定める額とする。

（利用料金等の減免）

第17条 指定管理者は、規則の定めるところにより、利用料金等の減免をすることができる。

（利用料金等の不還付）

第18条 既に納入された利用料金等は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

- (1) 利用料金等を納入した者が、その責めに帰することができない理由により、有料施設を利用することができなくなったとき、天体運行の投影、全天周映画若しくは展示物を観覧することができなくなったとき、自然館の観察施設を利用して天体を観覧することができなくなったとき、又は埋没木等を観覧することができなくなったとき。
- (2) 第20条の規定により有料施設の利用が禁止され、又は制限されたことにより当該有料施設が利用できなくなったとき。

（行為の制限）

第19条 自然館等において、次に掲げる行為をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

- (1) 広告物を表示し、又は宣伝活動をすること。

(2) 寄附金の募集、物品の販売その他これらに類する行為をすること。

(3) 集会、競技会、展示会その他の催しをすること。

2 指定管理者は、自然館等の管理上必要があると認めるときは、前項の許可に条件を付することができる。

(利用の禁止等)

第20条 指定管理者は、自然館等の管理上特に必要があると認めるときは、自然館等の全部又は一部について利用を禁止し、又は制限することができる。

(損害賠償)

第21条 指定管理者又は自然館等を利用する者は、故意又は過失により自然館等の施設、設備又は展示物を損壊し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。

(秘密保持義務)

第22条 指定管理者若しくは指定管理者であったもの又は第6条の業務に従事している者若しくは従事していた者は、その業務に関して知り得た管理上の秘密をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。

(原状回復義務)

第23条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき、又は第11条第1項の規定により指定を取り消され、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理をしなくなった自然館等を速やかに原状に復し、又は搬入した物件を撤去しなければならない。ただし、知事の承認を受けたときは、この限りでない。

2 施設等の利用が終わった者は、当該施設等を速やかに原状に復し、又は搬入した物件を撤去しなければならない。

(規則への委任)

第24条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則 (平成16年条例第52号)

(施行期日)

1 この条例は、平成17年4月1日から施行する。ただし、附則第3項の規定は、公布の日から施行する。

(島根県立三瓶山北の原野営場条例の廃止)

2 島根県立三瓶山北の原野営場条例(昭和45年島根県条例第45号)は、廃止する。

(準備行為)

3 この条例による改正後の島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第8条に規定する指定及びこれに関し必要なその他の行為は、この条例の施行前においても改正後の条例第7条の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

4 この条例の施行の日前にこの条例による改正前の島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例(以下「改正前の条例」という。)又は附則第2項の規定による廃止前の島根県立三瓶山北の原野営場条例(以下「旧条例」という。)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、改正後の条例の相当規定によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

5 この条例の施行後において改正前の条例の規定に基づき納付すべき使用料若しくは観覧料又は旧条例の規定に基づき支払うべき使用料については、なお従前の例による。

6 この条例の施行前にした行為に対する改正前の条例又は旧条例に規定する罰則の適用につ

いては、なお従前の例による。

附 則 (平成17年条例第39号)

- 1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年条例第68号) 抄

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成21年条例第38号)

- 1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年条例第73号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

別表第1 (第3条、第12条、第16条関係) (平21条例73・全改)

有料施設の名称	区 分	基 準 額	利用時間
ビジュアルドーム	入場料を徴収しない場合	1時間につき 2,380円	午前9時から午後9時まで
	入場料を徴収する場合	1時間につき 4,760円	
レクチャールーム		1時間につき 1,230円	

備考 利用時間が1時間未満であるときは1時間とし、1時間を超える場合において1時間未満の端数の時間があるときはその端数の時間は1時間として計算する。

別表第2 (第16条関係) (平21条例38・一部改正)

区 分		基準額 (1人1日につき)	
		個 人	団体 (20人以上の場合をいう。) の場合その他指定管理者が別に定める割引制度に該当する場合
天体運行の投影、全天周映画又は展示物を観覧する場合	小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者	200円	160円
	その他の者	特別企画展開催期間	800円
		企画展開催期間	480円
		上記以外の期間	320円
天体を観覧する場合	小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者	100円	80円
	その他の者	300円	240円
埋没木等を観覧する場合	小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者	100円	80円
	その他の者	300円	240円
天体運行の投影、全天周映画、展示物又は埋没木等を観覧する場合	小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者	250円	200円
	その他の者	特別企画展開催期間	920円
		企画展開催期間	600円
		上記以外の期間	440円

備考 1「企画展」とは、企画展示室における特別の企画に基づく展示をいう。

2「特別企画展」とは、施設全体を利用した大規模かつ特別の企画に基づく展示をいう。

別表第3 (第16条関係)

区 分	年間観覧料 (同一人が1年間、天体運行の投影、全天周映画、展示物、天体又は埋没木等を観覧する場合) の基準額
小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者	500円
その他の者	1,400円

島根県立三瓶自然館サヒメル
三瓶小豆原埋没林公園
三瓶山北の原キャンプ場

島根県立三瓶自然館 平成23(2011)年度 年報

平成24年5月23日発行

編集・発行 公益財団法人しまね自然と環境財団
島根県立三瓶自然館サヒメル
〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8
Tel 0854-86-0500 Fax 0854-86-0501
<http://nature-sanbe.jp>
E-mail : info@nature-sanbe.jp

印刷 松栄印刷有限公司
島根県松江市西川津町667-1



古紙配合率100%再生紙を使用しています
(表紙は古紙配合率5%)

